

2018年度

事業報告書

学校法人 KOBE COLLEGE

神戸女学院



「自分を限定しない」ことが未来を拓く力に

神戸女学院では、2018年3月25日、大学が新制大学設置認可から70年を迎えました。節目を記念し、各界で活躍する卒業生の“今”を特集する冊子を発刊。皆さんが「仕事か家庭か選ぶべき」「母親はこうあるべき」といった枠組みに自分を押し込めるのではなく、各々の立場を活かしてのびやかに日々を生き抜いておられる姿が印象的でした。それは、まさに144年前に神戸女学院を設立された宣教師の先生方が世に送り出したいと願った人間像と重なり、胸が熱くなる思いがしました。

キリスト教の原点には「他者に仕える」という精神があります。自己実現だけを目的とするのではなく、他者のために、社会のために自分は何ができるのかを問い続けるのです。本学院では、どのような立場にあっても他者を思い、自らを限定せずに学び考え続けられる素養を育むべく、教育に取り組んで参りました。それが本学院の「キリスト教主義リベラルアーツ教育」の根本であり、実際に卒業生の未来を拓く力となっています。

教育の継承と更新

大学では2017年から新カリキュラムの一環として領域横断ゼミ「クローバーゼミ」を開講。授業前は戸惑っていた学生が未知の専門分野に触れ思索することで「初めて知った!」と目を輝かせる瞬間を目の当たりにし、やわらかな心で学ぼうとする本学生の姿勢に誇らしさを感じました。

中高部では学外イベントやボランティア活動への参加を積極的に実施し、広い視野での思考力・判断力など、豊かな人間形成を促す取り組みを続けています。目の前の教科学習や進学だけに拘泥せず、社会や世界へと視野を広げるきっかけをつくる工夫を、今後もさらに深めてまいります。

2019年からは、創立150周年に向けたプロジェクトが具体化します。学生・生徒が本学院のキリスト教主義に基づくリベラルアーツ教育をより充実した環境で受けられるよう、学習・研究の内容や環境をさらに充実させてまいります。今後も本学院の教育の充実を支える同労者として、皆さまの一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

学校法人 神戸女学院
理事長・院長



「キリスト教主義リベラルアーツ教育」で
人生を問い続ける喜びを。



- 1 理事長メッセージ
- 3 建学の理念・教育目標／
設置学校・学部・学科等／沿革
- 5 大学メッセージ／中高部メッセージ

2018年度のご報告

- 7 大学
多様な知識と視点を得て
自分を、問い続ける。
- 9 中高部
社会との関わりを持ち、
学ぶ意味と実践する方法を知る。
- 11 KOBE COLLEGE AND COMMUNITY
- 13 環境整備
- 15 学生支援／環境整備／職員支援

神戸女学院 基本データ

- 17 入学定員・収容定員・在籍者数
- 18 在籍者数推移
- 19 志願者数・合格者数・入学者数
- 20 留学状況
- 22 卒業・修了・博士後期課程単位取得退学、
博士学位授与の状況
- 23 就職・進学状況
- 25 役員・評議員／教職員
- 26 事務組織図

財務の概要

- 27 2018年度決算の概要
- 28 事業活動収支計算書
- 30 資金収支計算書
- 32 貸借対照表
- 34 財務比率の推移

2019年度事業計画

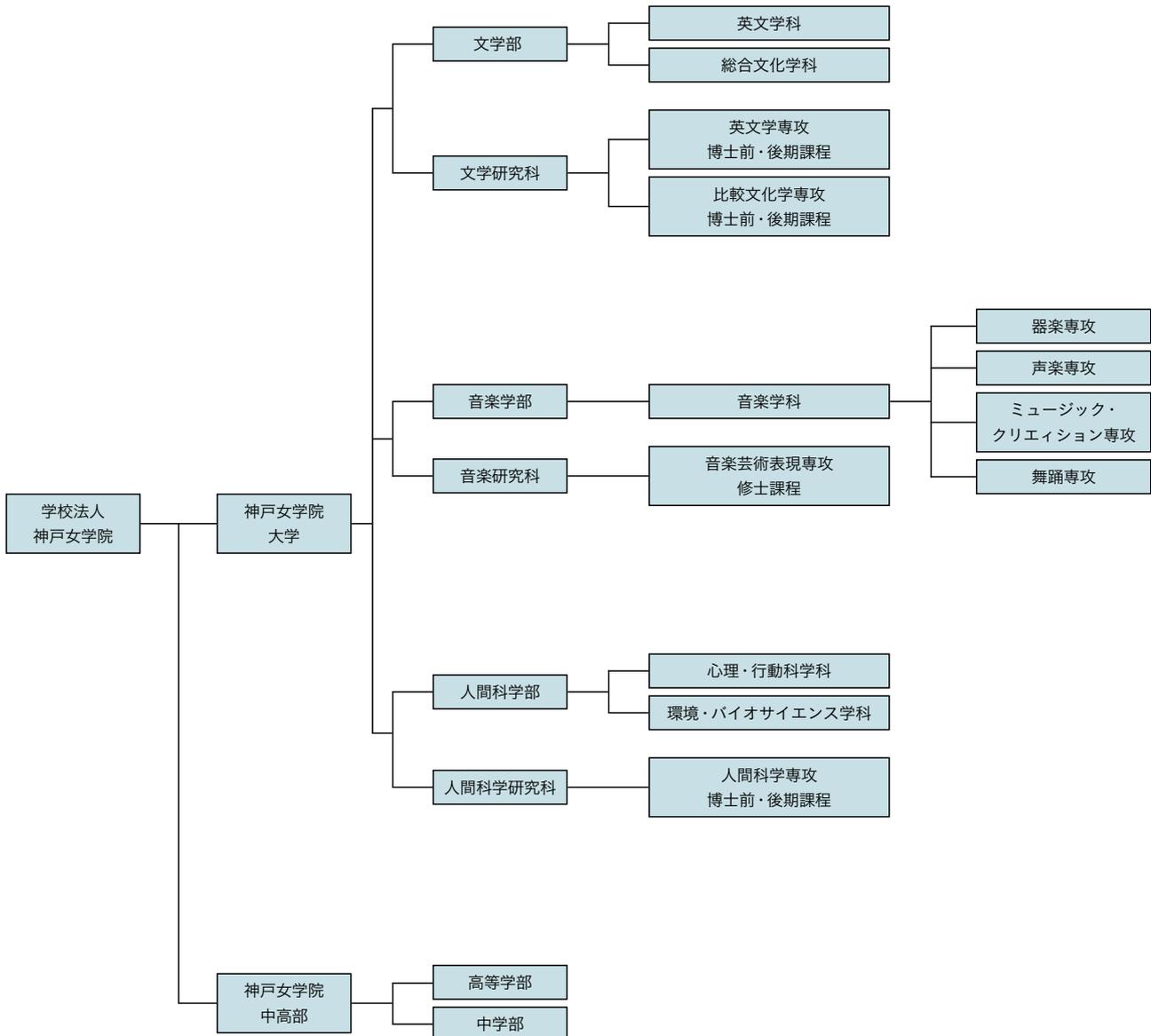
- 35 今後の運営方針及び
2019年度事業計画
- 36 2019年度予算書
- 37 歴史ある学院の姿を
いつまでも守るために
- 38 校地・校舎

建学の理念・教育目標

神戸女学院は、1875年(明治8年)、日本が近代化への一歩を踏み出したその時、アメリカン・ボード中部及び東部婦人伝道会から派遣された宣教師タルカット、ダッドレー両先生によって創立されました。当初から、神戸女学院の教育の根幹はキリスト教と国際理解の精神に根ざした全人教育であり、個性を重んじ、自由で自立した教養豊かな女性の育成でした。以来、高い教養と専門的知識、広

い視野と適確な判断力、さらに語学力を育み、神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」の精神のもと、自らが身を置いた時代や環境の中で、自らの使命を自覚し、地域社会や国際社会で活躍する女性を世に送り出してきました。現代も、この建学の精神と基本的教育目標を堅持しながら、急速に変化する社会の要請に対応して、絶えずカリキュラム内容の充実を図っています。

設置学校・学部・学科等



学校法人 神戸女学院の沿革

1873年(明治6年)	米国で教育者としての経験を持っていたタルカット、ダッドレー両宣教師は、3月に来日し、10月、神戸花隈村に私塾を開く。
1875年(明治8年)	創立。山本通に女子寄宿学校を開校。「女学校」と呼ばれる。英語名はGirls' School。初代校長はタルカット、舎監はダッドレーで、当初の学生数は26名(寄宿生3名、通学生23名)。
1879年(明治12年)	校名を「英和女学校」とし、5年制の課程を定めカリキュラムを整備。
1885年(明治18年)	高等科(1年)、および校章を定める。三つ葉のクローバーをかたどった校章は、身体、精神、靈魂の一致調和した完全な人格の育成をめざす学院の理想を表現。
1891年(明治24年)	本格的な女子高等教育を開始、3年制の高等科を設ける。この頃「神戸英和女学校」と名のる。
1894年(明治27年)	「神戸女学院(Kobe College)」と改称。名実ともにCollege(女子高等教育機関)となる。
1906年(明治39年)	教育課程を改正。また、新たに音楽科を置く。
1909年(明治42年)	専門学校令により「専門部(4年制)」(当時の女子高等教育の最高水準)設置認可。
1919年(大正8年)	日本女子大、東京女子大に続き、専門部を「学部」と称することを認められる。予科1年・本科3年を置く。
1933年(昭和8年)	西宮市岡田山に移転。伝道者・建築家ヴォーリスによってスパニッシュ・ミッション様式の校舎が完成。現在の文学館、理学館、図書館本館、音楽学部1号館、講堂・ソールチャペルを含む総務館などは当初の建物。
1947年(昭和22年)	学制改革により新制中学部設置認可。
1948年(昭和23年)	新制高等学部設置認可。4年制の新制女子大学—「神戸女学院大学」が認可され、文学部(英文学科、社会学科、家政学科)を設置。
1949年(昭和24年)	新制の音楽学科を設置。1952年には音楽学部の認可を受ける。
1965年(昭和40年)	大学院文学研究科(修士課程) 英文学、社会学専攻を設置。
1967年(昭和42年)	家政学科が独立して家政学部となる。
1975年(昭和50年)	創立100周年を迎える。
1976年(昭和51年)	文学部社会学科を改組して総合文化学科とする。
1980年(昭和55年)	大学院の整備・充実が進む。大学院文学研究科(修士課程)に日本文学専攻を設置。
1989年(平成元年)	大学院文学研究科英文学専攻に博士後期課程を設置。
1990年(平成2年)	音楽専攻科を設置。
1993年(平成5年)	家政学部を改組して、人間科学部人間科学科を設置(家政学部は募集停止)。
1997年(平成9年)	大学院人間科学研究科(修士課程)人間科学専攻を設置。
1999年(平成11年)	大学院人間科学研究科人間科学専攻に博士後期課程を設置。
2000年(平成12年)	創立125周年を迎える。大学院に音楽研究科(修士課程)音楽芸術表現専攻を設置。また大学院文学研究科日本文学専攻を比較文化学専攻に改称。
2002年(平成14年)	大学院文学研究科比較文化学専攻に博士後期課程を設置。
2004年(平成16年)	大学院文学研究科(博士前期課程)英文学専攻に通訳コースを設置。
2005年(平成17年)	人間科学部に心理・行動科学科と環境・バイオサイエンス学科を設置(人間科学科は募集停止)。
2006年(平成18年)	音楽学部音楽学科に舞踊専攻を設置。
2007年(平成19年)	音楽学部音楽学科作曲専攻をミュージック・クリエイション専攻に改組。
2013年(平成25年)	大学院文学研究科社会学専攻を廃止。
2014年(平成26年)	岡田山キャンパスの12棟の建物が、国の重要文化財に指定される。
2015年(平成27年)	創立140周年を迎える。 大学院文学研究科(博士前期課程)英文学専攻にグローバル・スタディーズコースを設置。



学外と関わり学ぶことで
未来を拓く力を身につける



生徒の知的好奇心とニーズに
応える学習環境の整備

2018年は、戦後に新制大学として設置認可を受けた70周年の記念すべき年でした。

これを記念して卒業生20人にインタビューを行い『Stories』という冊子にまとめ、全在生に配付しました。種々様々な世界で活躍している卒業生の話はまさに魅力あるストーリーです。大学のHPで2020年3月まで公開されています。

また2018年4月の交通広告「女は大学に行くな、」への反響は非常に大きく、世間からの本学への関心の高まり、海外から本学への留学にも結び付きました。

5月には、かれん・ケリー氏（駐大阪・神戸米国総領事）が来校し、自身の体験を交えた女性とキャリアについての講演に引き続き、学生との活発な質疑応答が行われました。6月（於：本学講堂）には、提携校であるサム・ヒューストン州立大学から総勢45人が来日し、本学音楽学部学生との合同オペラ公演を実施。満席、スタンディングオベーションの大成功となりました。産学協同事業としては、本学オリジナルの和紅茶（『気品あふれるべにふうき』）の商品化が実現。就職状況も好調で、金融・マスコミなど幅広い職種に「リベラルアーツの神戸女学院」の強みが発揮されています。神戸女学院創立150周年を視野に入れた歩みも始まっています。

神戸女学院大学 学長

青藤言子

中高部ではキリスト教主義のリベラルアーツ教育を展開し、生徒一人ひとりに主体的かつ積極的な学びの機会を提供しています。授業や総合学習「探究」、人権学習会・キャリアガイダンス講演会等を通して培われた生徒たちの知的好奇心はますます旺盛になり、多様な分野の校外活動に参加して成果を上げています。

夏季休暇中に実施されるエンパワーメントプログラム、宗教部主催の各種修養会、宗教強調週間に実施される「白熱教室」や「ジョギアーク」等で討論により多様な意見や価値観に触れ、視野を広げ、将来の人生設計をより明確にする生徒も多数います。

学習環境充実のため、教室のICT環境改善等にも努めました。また2020年の大学入試改革を見据え、高等学部1、2年生に校内でGTEC受験を実施。加えてe-Portfolioによる大学出願を踏まえ、高等学部1、2年生が自分の経験した活動や学習の振り返りを定期的に記録保存できるようClassiも導入しました。

中高部卒業生有志の親睦会KC法曹会とKC Medicalの設立など、建学の精神「愛神愛隣」を基とし社会や隣人に仕えるべく努力を続ける後輩へのご支援に感謝しています。今後も中高部教職員一丸となってさらなる教育の充実に努めてまいります。

神戸女学院 中学部・高等学部 部長

林真理子

KOBE COLLEGE

— 2018年度のご報告

正解のない実社会において、変化し続ける世界において、
心豊かに生きるための力になる「リベラルアーツ教育」。
本学院では、視野を広げて学ぶことや生涯にわたって学び続ける姿勢を身につけることを目的に
さまざまな事業活動を進化させ続けています。
それらの中から2018年度の事業の成果についてご紹介いたします。



多様な知識と視点を得て 自分を、問い続ける。

昨年度に引き続き、神戸女学院大学の価値を学内外で発信・実践する活動を実施。
学生の学習意欲などに、よい刺激がもたらされています。

卒業生が紡いできた実績こそが、本学のブランド価値に

卒業生が語る「今のわたし」を 交通広告で展開

2018年12月に、交通広告（電車内広告）を掲出しました。今回は、文学部・音楽学部・人間科学部出身の3名の卒業生にご登場いただき（3種類の広告を制作）、本学での学びとその延長線上にある今について語っていただきました。広告は「わからないから、おもしろい。」のメインコピーと簡単なメッセージ一文ですが、特設サイトで詳細を見ることができる仕組みにしました。



出典：週刊東洋経済臨時増刊「本当に強い大学2018」
(東洋経済新報社)

「本当に強い大学2018」にランクイン!

週刊東洋経済の臨時増刊「本当に強い大学 2018」において、本学が今回も上位にランクインしました。総合ランキングでは、昨年より10位ランクアップし137位（関西の私大では23位）に、「就職率ランキング」では文学部が文・人文系で13位（関西の私大では2位）、人間科学部が文理融合系で8位（関西の私大で1位）にランクインしました。安定した就職力が上位に入った要因のようです。

多くの卒業生が登場する70周年記念誌を発行

新制大学設置認可70周年を記念し、2018年12月、卒業生の皆様の「学生時代とそれから」を読み物としてまとめた『Stories 一私はまだ、私を知らない。一』を発行。多方面にわたり活躍する卒業生の生き方を、学生に紹介したいとの思いから制作し、最終的に3学部20人の卒業生にご登場くださいました。本冊子は本学HP上でも閲覧することができます。



社会と関わり五感で学ぶ、「リベラルアーツ教育」を



国境を越えたオペラ制作プロジェクト 国内外初の試みに本学から9名が参加

大学間協定並びに交換留学協定を締結する米国テキサス州のサム・ヒューストン州立大学（SHSU）と合同で、パーセル作曲の歌劇《デイドとエネアス》を制作。両音楽学部生が行き来し、2018年3月23、24、25日にSHSUで、6月1、2日に神戸女学院講堂で公演を行いました。本プロジェクトは、朝日新聞、神戸新聞、NHK第1放送のラジオ番組等、メディアでも大きく取り上げられました。

この活動の目的は、文化や価値観の異なる学生が互いに理解し合うこと。音楽活動で両校の絆も深まりました。

オーストラリアでフィールドスタディを実施

英文学科のメジャー科目「Field Study」では、多文化理解を深めることを目的に、現地を訪れ英語で交流しながら学びます。他学科へのオープン科目としても開講されており、英文学科以外の学生も参加。学生たちは2019年2月5日～14日、キャンベラ、ウーロンゴン、シドニーへ。学生たちは先住民大使館や歴史博物館の方々、現地の卒業生を訪問してお話を聞き、出発前にそれぞれが立てた“3つの問い”の答えを探る旅をしました。



オーストラリアの首都キャンベラの国会議事堂を訪れた。



マイナープログラムでの学びの 成果を学内コンサートで発信

2018年12月19日、マイナープログラム（副専攻）で音楽を学ぶ総合文化学科の学生たちが、図書館新館でコンサートを開催しました。総合文化学科で主専攻を学びつつ、副専攻で音楽学科の音楽分野を学ぶ学生1名と、器楽分野（ヴァイオリン）を学ぶ学生2名の3名により演奏が行われました。このコンサートは、マイナープログラムでの学びを多くの学生に知ってもらいたいとの思いから学生自身によって企画されました。

「ACUCA STUDENT CAMP」に 初めて本学から4名を派遣

2018年10月10日～13日、ACUCA（アジアキリスト教大学協会）が隔年で開催するStudent Campに、初めて本学から学生4名を派遣しました（日本からの参加者は15名）。今回はネット時代を背景に“The Internet’s impact on Identity and Character Development of Students in Asian Christian Higher Education: Issues and Solutions”がテーマに。学生たちにとって自らの人格形成におけるネットの功罪についてアジア各国の学生と英語で議論し、国際交流を深めるという非常に貴重で刺激的な機会になりました。



社会との関わりを持ち、 学ぶ意味と実践する方法を知る。

中学部・高等学部では、社会とさまざまな接点を持ち実践的に学ぶ活動を重視。
主体的・積極的な学びを通して、価値を創造し、多様性を受容する力を養うプログラムを実施しました。



iPS細胞研究の第一人者を招き、 キャリアガイダンス講演会を実施

中高部では年2回、キャリアガイダンス講演会を開催しています。今年度はiPS細胞研究を大きなテーマに、2018年12月13日に澤井努先生（京都大学iPS細胞研究所上眞倫理研究部門特定助教）をお招きして倫理面から、2019年3月15日に万代道子先生（理化学研究所生命機能科学研究センター視細胞プロジェクト副プロジェクトリーダー）をお招きして実際の研究面から、お話を伺いました。人間味あふれるご講演の中に先生方のご苦労や喜び、研究者としての矜持を感じることができ、実り多い講演会となりました。

主体的に学び考察した 2018年度の人権学習会

あらかじめ設定した6つのテーマについて6年間で順に学習していた人権学習会。従来は担当教員が作成したパワーポイントで全校生徒に歴史を中心に説明する形でしたが、2018年度は新たな試みとして、1学期にヒューライツ大阪の講師・朴君愛先生をお招きして世界人権宣言等の国際的な人権規定について、ご講演いただきました。2学期は人権が侵害された状態を描いたイラスト6枚が世界人権宣言におけるどの条文に該当するかをグループで話し合い、ワークシートにまとめる作業を行いました。3学期は、事前に生徒が書いたワークシートをお見せしたうえで、学習会において人権専門家からみて、それぞれのイラストがどの条文に該当するかという「模範解答」を示していただく機会を得ました。生徒自身が「思考する」という段階を経ることで、より生徒の記憶に残る人権学習会になりました。

5日間、英語で交流し学ぶ エンパワーメント・プログラム

2018年7月23日から27日まで、高校2年生1名、高校1年生5名、中学3年生38名を対象に、エンパワーメントプログラムが開催されました。8名の学生グループリーダーに導かれ、生徒たちは楽しみながら英語でスキットやプレゼンテーションを行い、英語の技能を高めるとともに、自分の適性や将来の目標を考えました。2018年度のファシリテーターはジャマイカ出身。アメリカから来た学生に加え、インドネシア、モロッコ、ジンバブエ出身の留学生たちが出身国の紹介を行い、国際色豊かなプログラムとなりました。





中学部で行われた「新聞の読み方講座」。どこから読むか、どう理解するかなどを学びました。

新聞を題材に、学ぶための 総合力を身につける授業を実施

中学1年生は本に親しみ、調べ方、まとめ方、発表方法の基礎を学び、様々な力を総合的に身につけるための授業を行っています。中学2年生、高校1年生は約半年をかけて個人研究をしています。今年度の新しい取り組みとして、世の中の動きを知ることができる新聞に親しむ機会を設けました。中学1年生、中学2年生では朝日新聞社の方に「新聞の読み方講座」をしていただきました。講座受講後には自分の意見を新聞に投書し、その結果、中学2年生で2名、中学1年生で1名の投書が朝日新聞「声」の欄に掲載されました。高校3年生では興味のある新聞記事を切り貼りして「まわし読み新聞」を作る授業を行いました。

英語運用能力を技能別に測定できる GTEC受験を導入、好成績をマーク

2021年度大学入試から導入される英語外部検定試験利用に備え、2018年度より高等学部生にGTEC受験を導入。欧米の大学への進学が主目的のTOEFLやIELTS、ビジネス英語主体のTOEIC等に比べ、GTECは実用英語技能検定試験と並んで生徒の多くが受験するのに適していると判断し、英検が個人で受験できるのに対しGTECが学校申込みでのみ受験可能なため導入を決めました。中学部のクルーメソッドで4技能をバランス良く学習した生徒たちは、特に「書く」「話す」の領域で好成績を上げることができました。

訪豪研修旅行～オーストラリアの 大自然と人々とのふれあいの3週間

1988年以来、中高部と西オーストラリア州パースのMethodist Ladies' College (MLC) は姉妹校提携しており、一年ごとに両校が企画する3週間の短期留学プログラムにより交流を深めています。訪豪研修旅行は、隔年で行われる訪米語学研修旅行（現アメリカ・アカデミック・スタディー・ツアー）とは異なり「語学」という名称が付きません。それは、このプログラムが語学学習に限らずオーストラリアの文化、自然、人々とのふれあいを目的としているためです。日本では得がたい雄大な自然と多民族文化に触れることで、生徒の国際感覚を養っています。



宗教強調週間に開催した 内田樹名誉教授による講演

2018年11月5日～9日を宗教強調週間として、毎朝の早天祈祷会と外部講師を招いての特別礼拝を実施。放課後には「KCH白熱教室」を開催し、在校生同士だけでなく卒業生との語らいの時を過ごしました。また、2018年度は内田樹名誉教授を招いて「今を生きるために」をテーマにした講演が行われ、その後は質疑応答の機会が設けられました。日々の喧騒から離れて、神の御言葉に耳を傾けて祈る時間、共に語り合い志を確かめ合う時間を、これからも大切に守っていきます。



学習・活動記録を蓄積できる 「Classi」で教育環境を充実

学習および活動記録の蓄積（ポートフォリオ機能）を目的として、生徒の学習、教員の授業と生徒指導をサポートするシステム「Classi」を高等学部の生徒を対象に導入しました。「学びの記録」をデジタルデータ化して蓄積することで、生徒のさらなる成長をサポートすると同時に、今後の大学受験出願時の資料として活用することもできます。生徒・保護者への連絡機能やアンケート機能、学習支援機能なども備えており、様々な面で学びの支援に利用しています。

KOBE COLLEGE × 企業

企業とのコラボレーションで
社会との関わりを学ぶ■ 高岡ゼミオリジナル和紅茶の
開発・販売

環境・バイオサイエンス学科の高岡ゼミでは、鹿児島で栽培されている茶葉「べにふうき」について研究を行い、外国産紅茶と比較。テアニン含量が高いことを見出し、渋みが低く、甘みが強いことを確認しました。芳醇な香りを有し、嗜好性の高い「べにふうき」紅茶を多くの方に味わってもらうため、ゼミで「神戸女学院大学の和紅茶」を商品開発しました。



大阪梅田「LUCUA 1100」にある「キッチン&マーケット」にて、期間限定販売を行いました（現在は常設販売中）。



■ 学生主催文学部講演会

2018年11月17日、翻訳家の柴田元幸氏を講師に迎え、文学部講演会を実施しました。学生のインタビューによる、最新訳の『ハックルベリー・フィンの冒けん』についてのお話、柴田氏訳の『ウインドアイ』（ブライアン・エヴンソン著）のご自身による朗読、そして内田樹名誉教授との対談、と盛り沢山な内容でした。



■ 絵本翻訳コンクール表彰式

今回で9回目となる「絵本翻訳コンクール」を行い、全国360の高校から1,738作品の応募がありました。厳正な審査の結果、応募作品の中から最優秀賞1組、優秀賞1組、佳作3組が選ばれ、2018年11月24日に「めじらウヅ」にて表彰式を行いました。2019年は、第10回の記念の年となります。



KOBE COLLEGE × 文学

物語を題材に
語学力や考察力を
磨き上げる

KOBE COLLEGE × 心理

「遊び」が子どもに
与える力を
シンポジウムで知る

■ 臨床心理士による地域実践を考えるシンポジウム

2019年3月2日に「遊びとプレイセラピー どうして遊んでいるだけでよくなるの？」と題しシンポジウムを開催しました。本学石谷教授「人形遊び技法と遊び」、國吉教授「親子相互交流療法と遊び」、須藤准教授「プレイセラピーと遊び」の発題と奈良女子大学黒川嘉子准教授のコメントを通し、子どもの治療や査定に「遊び」が極めて重要な役割を果たすことを学ぶ良い機会となりました。反響も大きく、学内外から72名もの参加がありました。

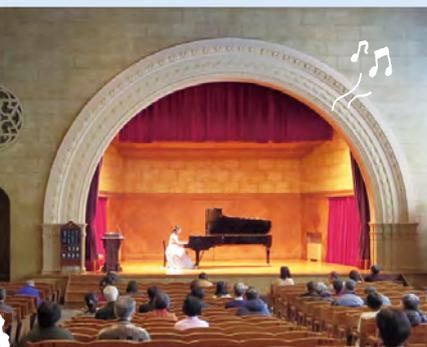


AND COMMUNITY



KOBE COLLEGE × 地域

開かれた教育機関・
重要文化財として
地域貢献を行う



■ 中高部修養会

中高部では、生徒たちが「愛神愛隣」の眼差して世界を見渡し、自らの使命を見出してゆくために、大阪水上隣保館、釜ヶ崎いこい食堂、国立ハンセン病療養所、広島、白浜バプテストキリスト教会への訪問を実施してまいりました。参加者の経験は礼拝で語られ、共有されています。



KOBE COLLEGE × 子ども

防災や遊びを通して
地域の子どもと交流する

■ 春秋の子ども会活動

春の子ども会は関西学院高等部と合同で行う、50年以上の歴史を誇る伝統行事です。近隣の複数の児童養護施設の小学生を招き、自然豊かな本学でともに一日を満喫しています。そして、秋の子ども会は、本校の生徒たちのみで開催、手作りの昼食を味わいつつ、さらに子どもたちと交流を深めています。

■ 金曜日公開プログラム

金曜日公開プログラムとは、アッセンブリアワーのうち、一般公開しているプログラムです。2018年度は礼拝・講演会・コンサート等が開催され、年間約1,400名の方にご来場いただきました。外部の講師や演奏者をお招きするだけでなく、教職員・学生による発表も取り入れられ、多彩なプログラムとなりました。



■ 防災ウォッチ

地域創りリーダー養成プログラムの一環として、小学校の防災訓練やその他のイベントで、災害の危険や防災に役立つ物を妖怪になぞらえたキャラクター（防災ウォッチ）を使って、学生たちが工夫を凝らした寸劇やゲームを行い、子どもたちに防災について楽しく学んでもらいました。

■ 映画、テレビドラマのロケ地となりました

映画「センセイ君主」およびNHK「まんぶく」において、本学院の建物群がロケ地として使われました。反響も多くあり重要文化財一般公開においても、ロケ地の見学を目的とした方もおられました。これを一例に、今後も重要文化財「活用」についての知見を蓄積してまいります。

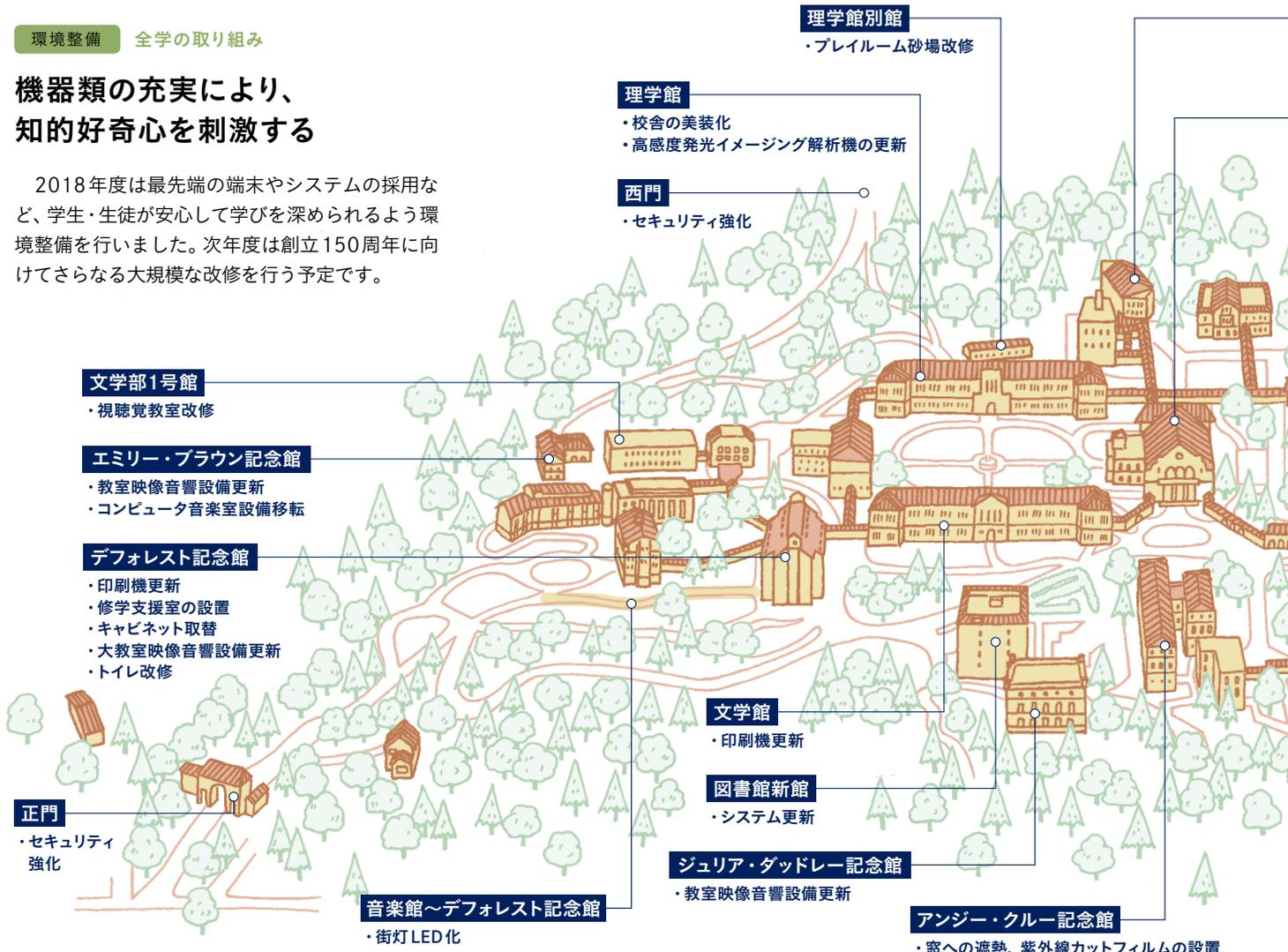


「まんぶく」撮影風景 当日は雨でしたがキャスト、スタッフの熱気にあふれていました。

環境整備 全学の取り組み

機器類の充実により、
知的好奇心を刺激する

2018年度は最先端の端末やシステムの採用など、学生・生徒が安心して学びを深められるよう環境整備を行いました。次年度は創立150周年に向けてさらなる大規模な改修を行う予定です。



環境整備 大学の取り組み

現代の学びスタイルに合わせ、教室視聴覚設備を改修

■ LAI-1 (文学部1号館)

PCを利用した語学学習を情報処理センター管理の2教室に任せ、LL機能が中心のこの教室を、プレゼンテーションやグループワークを通じてコミュニケーション力を磨くための教室として改修。サイドテーブル付回転椅子(21色)、全面ホワイトボード、高輝度プロジェクタ、プレ

ゼンテーション台、グループ学習ツール等を導入。今後、学習端末の導入も予定。

■ D-206、D-208 (デフォレスト記念館)

学内で実施される語学試験(TOEFL、TOEIC等)において、どの席に座っても音声が個人差なく届くように、音圧を測定し、それに基づき天井から吊るすタイプのスピーカーへと一新。



議論や発表を行う教室として整備されたLAI-1。



場所に関わらず音声がクリアに届くD-206、D-208。

環境整備 中高部の取り組み

強い紫外線を防ぐため
南面窓にフィルムを装備

アンジー・クルー館は、建物自体に^{ひまし}庇の無い設計のため、南窓側は直射日光の影響が強く、遮光カーテンが必須でした。近年、難病等、障がいを抱える生徒への配慮が必要となっており、今回さらに高等学部の全教室に高性能の紫外線等カットフィルムを装備。上階においては、緑豊かな学内風景も視野に入り、より理想的な授業環境が提供されています。



カーテン無しでも紫外線を防げるように。

新社交館

- ・印刷機更新
- ・食堂券売機更新

総務館・講堂・ソールチャペル

- ・校舎の美装化
- ・耐震改修
- ・クリスマスツリーの新調
- ・講堂AV機器更新

第二体育館

- ・1階フロア全体の空調設備工事
- ・男子トイレ、シャワー室改修

岡田山ロッジ

- ・エアコン設置

タルカッタ記念館

- ・書道教室、美術、工芸教室流し台の改修
- ・サッシ改修

葆光館（中高校1号館）

- ・トイレ改装
- ・ロッカー室空調換気設備改修
- ・給水配管改修

環境整備 大学の取り組み**コンピュータ音楽室を移転し、機材を拡充**

2007年に旧作曲専攻を改組し、作・編曲、D.T.M. (Desk Top Music)、音楽学、指揮の四分野を併せたミュージック・クリエーション専攻を開設してから10年を経て、望まれていた文学部2号館7室からの移転が実現しました。格段に広くなった新教室エミリー・ブラウン館001室には現有機材による一般学生用8台コンピュータ、ミュージック・クリエーション専攻学生用2台を新調、また専用什器と教員用1台、大型ディスプレイも新調、教員からの現物寄付品を合わせて4スピーカーの室内音響設備を整えました。

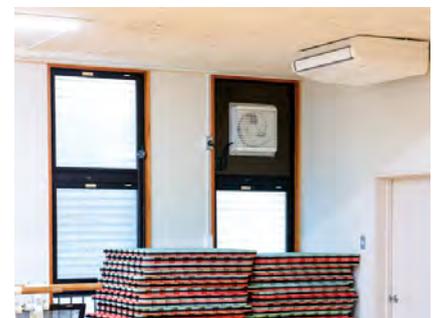
この移転整備によって、コンピュータ音楽教育に力を入れる他大学に遅れることなく音楽学科教育を展開していくことができます。また、「オープン科目」として全学的な教育充実にも寄与しています。



機材の充実により、コンピュータ音楽など時代に合わせた活動が可能に。

環境整備 中高校の取り組み**第二体育館の1階フロアの空調設備を拡充**

2015年度の2階部分に続き、1階も空調整備を充実。以前の環境から大幅に改善され、体育授業やクラブ活動、体育祭の組・学年別集会の使用等で夏の熱中症対策になり、冬のしもやけに悩まされる生徒も減少。安心して生徒指導ができるようになりました。寒いシーズンに実施される中学部入試での体育科目の際も、体が冷えることなく受験していただけます。今後も予測される異常気象への万全の備えとなりました。



真夏の熱中症対策も万全に。

環境整備 大学の取り組み**図書館システムを更新、利用者にも職員にも便利に**

図書館業務の基本となる図書館システムは、サーバ等ハードウェアの耐用年数、基本システムの更新頻度に鑑み、5年をめどに更新を実施しています。2013年度に続き2回目の更新となる今回は、この5年間に付加された新たな機能のうち、当館に有用なものを選択して更新しました。ハードウェアについては、可能な限り現有機器を引き続き使用しました。新機能の充実により、利用者、業務担当者双方の利便性向上が期待できます。



サーバのバックアップ機能も向上。

学生支援 大学の取り組み

英語教育を拡充、学生の成績が伸長

共通英語教育研究センターでは他大学にない5点の独自手法を取り入れています。

- ①1年次における週4回の英語必修授業
- ②オリジナルテキスト
- ③英語手帳
- ④全学的なESP教育
- ⑤OSAKA ENGLISH VILLAGE

さらにセンター発足後には、他大学で行われていた取り組み5点も積極的に実施。

- ①統一授業
- ②English Honors Program
- ③TOEIC指導
- ④表彰制度
- ⑤ランチタイムイベント

とくに③については、授業だけでなく講習会も実施するなど力を入れています。

その結果、本学(英文学科除く)のスコアは入学からの15ヶ月で平均84点上昇(2016年度入学生[※])という全国でも例を見ない伸びを示し、注目を集めています。

OSAKA ENGLISH VILLAGEにて。



す。大学通信による「生徒を伸ばしてくれる大学」で本学は全国29位、女子大で2位、関西で5位に。「大学ジャーナル」(受験情報誌 90,000部発行)の特集「大学の共通教育『英語』その改革について考える」では共通英語で成果を上げている大学として京都大学等と共に上げられました。

学生支援 大学の取り組み

130回を超える就職支援プログラムを実施

キャリアセンターでは学生が自身の将来について自ら考え選択できるよう、学ぶ場・知る場を数多く提供することを目的に2018年度も130回を超えるプログラムを実施しました。その主な内容は以下のとおりです。

- ①就職ガイダンス(就活スケジュール概要など)
- ②企業研究セミナー・学内企業セミナー

③就職試験対策講座(SPI3、玉手箱等への取り組み)

- ④インターンシップ選考対策講座
- ⑤低学年対象キャリアガイダンス

また個別指導としてキャリアカウンセラーによる通常面談、3年生全員を対象とした「自己分析サポート面談」等、個人単位の支援も実施。在学生には上記プログラムを含めキャリアセンターを積極的に

プログラムの活用により、高い就職率を達成。



に活用するよう呼びかけ、就職率(就職者÷就職希望者)を100%に近づけるよう努力いたします。

学生支援 大学の取り組み

障がいのある学生への修学支援を推進

本学では、障がいのある学生が学修を行う上で抱える困難について相談に応じ、学生主事、カウンセリングルーム他と連携し支援を行ってきました。2018年度からは専任の修学支援担当者を配属するとともに、支援窓口を設け、相談をより専門的・合理的に解決するための体制を整え始めています。

2018年度の職員FD研修会では「学生支援・相談体制の構築:専門支援職員の職能の理解と教・職チームワークづくりにむけて」をテーマに、文部科学省「社会で活躍する障害学生支援プラットフォーム形成事業」を担当する外部講師にご講演いただきました。また、担当者から修

学支援体制や修学支援相談の実態について説明を聞き、学生支援への理解を深めました。

今後も、学内外での研修の機会を活用



デフォレスト館地下1階に設けられた支援窓口。

しながら、専門知識を有する修学支援担当者を中心に、学生の学修環境の維持と向上を目指します。



学外講師による講演なども実施。

※…2017年度入学生は大雨のためIP-TOEICが延期になり正確なデータがとれていない。

環境整備 全学の取り組み

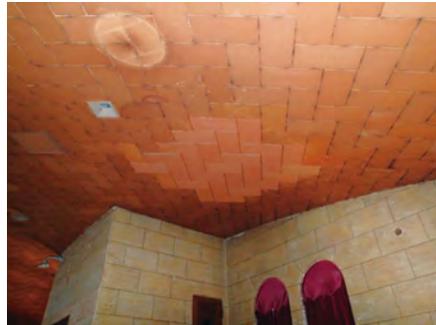
講堂・総務館の
耐震改修工事を実施

2012年に実施した調査の結果、屋根瓦の全面撤去が必要な計画案が示された講堂・総務館の耐震改修。しかし講堂が長期間使用できなくなることで、軒先の意匠に影響が生じることで、実施には困難な課題がありました。

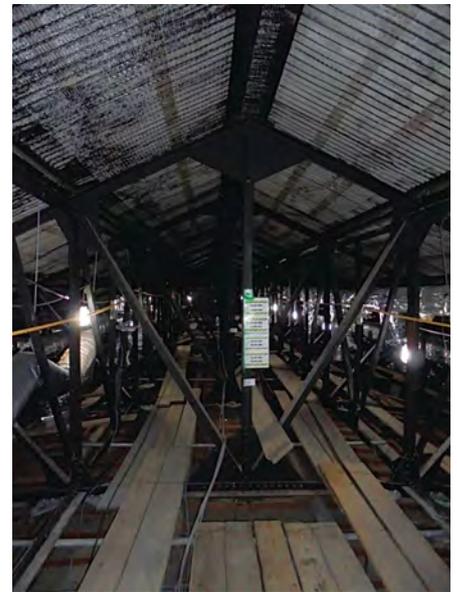
そこで学校活動への影響が少ない工法を再検討。一度外された跡が残る2階席天井部に搬入用の開口を設け、鉄骨小屋組の補強を行う計画案を策定し、文化庁の内諾を得た上で構造設計業務を委託しました。

折よく募集が行われた文部科学省の補助金交付も決定し、工事契約を締結。3月

天井裏搬入用の施工。



末にまずは総務館1階の壁に耐震スリットを施工、続いて5月から毎夕18時以後に小屋裏内で作業を行い、補強材「耐震ケーブルブレース」の取り付けを8月末に無事終了、講堂の耐震性能を示すIs値は0.58から0.89に向上しました。



講堂小屋根裏全景。

環境整備 中高部の取り組み

1号館トイレを洋式に改修し、心地よい空間に

2006年度に全面改修された1階トイレ(メインゴフ)を皮切りに、時代の流れに合わせて各館全トイレの洋式への改修工事を推進。2018年度にようやく1号館2階のトイレ改修を終えました。在校生へのサービス向上を基本理念に、秀逸なメインゴフとのバランスも考慮した機能的なトイレに改修し、空間全体のイメージアップを図ることができました。



床や壁なども見直し、明るく清潔な空間に。

環境整備 全学の取り組み

安心・安全を守るため
セキュリティを強化

2018年度は、7月より入構基準を導入、また不審者の侵入を防ぐために、2017年度に設置した北門と谷門の電気錠の運用を開始し、外来の方の受付は正門と西門に限定することになりました。さらに警備員の増員、街灯の増設などの施策を実施しました。2019年度も、より一層のセキュリティ強化を目指して、引き続き学院全体で取り組んでまいります。

職員支援 全学の取り組み

職員の働き方を見直し、
より持続可能な運営体制に

「働き方活性化プロジェクト」は2018年7月に発足しました。2017年度に活動した「働き方改革プロジェクト」による提言書で指摘された課題について、主に事務組織の課題にフォーカスしながら、優先順位や今後の具体的な進め方を検討してきました。約5カ月(延べ7回)の集中審議を経て、提言書ならびに当該提言に至るまでの議論等を整理した活動報告を提出しました。

環境整備 全学の取り組み

重要文化財神戸女学院保存活用委員会を開催

2018年7月30日に開催した委員会では総務課入り口の耐震スリットと理学館・総務館の美装化工事現場をご案内し、外壁や建具の劣化状況を実地見学後、過度の補修により経年の風格を損なわないよう作業を進めることを確認しました。そして、正門の保存修理を含めて取り組みに着手している「保存活用」についてご説明し、学外委員の方々から貴重なご意見をいただきました。



美装化と耐震工事を終えた総務館。

神戸女学院 基本データ

入学定員・収容定員・在籍者数 (2018年5月1日現在)

神戸女学院大学

学部	入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
文学部				
英文学科	150	172	590	712
総合文化学科	200	236	800	946
計	350	408	1,390	1,658
音楽学部				
音楽学科	46	27	186	170
(編入)	1	0		
計	47	27	186	170
人間科学部				
心理・行動科学科	90	111	360	423
環境・バイオサイエンス学科	80	81	320	356
計	170	192	680	779
大学 計	567	627	2,256	2,607

* 2016年度より英文学科の入学定員を140名から150名に増員

神戸女学院大学大学院

文学研究科		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
英文学専攻	博士前期課程	13	4	26	16
	博士後期課程	2	0	6	1
比較文化学専攻	博士前期課程	5	2	10	7
	博士後期課程	2	0	6	0
計		22	6	48	24
人間科学研究科					
人間科学専攻	博士前期課程	10	7	20	17
	博士後期課程	2	2	6	2
計		12	9	26	19
音楽研究科					
音楽芸術表現専攻	修士課程	7	4	14	11
大学院 計		41	19	88	54

神戸女学院中高部

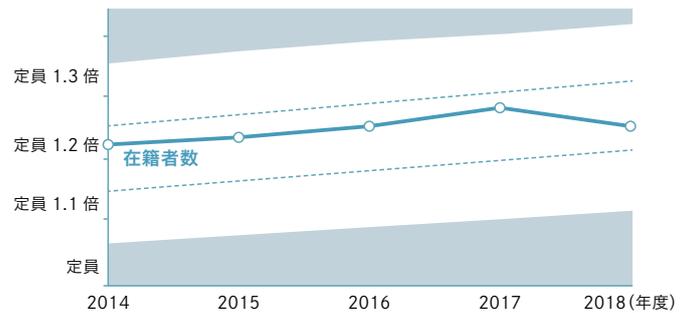
	入学定員	入学者数	収容定員	在籍生徒数
中学部	135	149	405	435
高等学部 全日制課程 普通科	—	—	405	413
中高部 計	135	149	810	848

在籍者数推移

神戸女学院大学

学部名	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
文学部	1,588	1,615	1,619	1,657	1,658
音楽学部	183	180	185	177	170
人間科学部	796	772	759	792	779
計 (A)	2,567	2,567	2,563	2,626	2,607
定員 (B)	2,207	2,226	2,236	2,246	2,256
(A)/(B)	1.16	1.15	1.15	1.17	1.15

* 2016年度より英文学科の入学定員を140名から150名に増員



神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程					
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
文学研究科	23	23	18	21	23
人間科学研究科	22	22	23	22	17
音楽研究科	13	18	17	15	11
計	58	63	58	58	51

博士後期課程					
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
文学研究科	4	4	2	2	1
人間科学研究科	5	3	4	0	2
計	9	7	6	2	3

神戸女学院中高部

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
中学部	423	419	424	426	435
高等学部	418	411	403	413	413
計	841	830	827	839	848

志願者数・合格者数・入学者数

神戸女学院大学

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
志願者数	3,692	3,753	3,539	4,038	4,284
合格者数	1,656	1,741	1,668	1,377	1,562
入学者数	644	655	684	627	647

神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程					
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
志願者数	41	44	39	30	42
合格者数	30	31	29	21	25
入学者数	28	27	28	17	24

博士後期課程					
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
志願者数	1	2	1	2	4
合格者数	1	1	1	2	4
入学者数	1	1	1	2	4

入試制度別状況

			志願者数	受験者数	合格者数	実質競争率
一般入学試験	前期 A 日程	3 科目型	534	528	190	2.8
		2 科目型	678	673	231	2.9
		音楽学科	34	34	30	1.1
	前期 B 日程		585	580	189	3.1
	前期 C 日程		365	240	90	2.7
	前期 D 日程	センター 1 科目型	156	93	39	2.4
センター 2 科目型		107	59	25	2.4	
大学入試センター試験 を利用する入学試験	前期日程	2 科目型	205	205	64	3.2
		3 科目型	200	198	68	2.9
		4 科目型	97	96	35	2.7
	後期日程	2 科目型	77	77	24	3.2
		3 科目型	57	57	18	3.2
		4 科目型	33	33	13	2.5
一般入学試験 後期日程			268	251	73	3.4
公募制推薦入学試験			650	643	254	2.5
AO入学試験			52	50	34	1.5
帰国子女入学試験			1	1	1	1.0
社会人入学試験			0	—	—	—
外国人留学生入学試験			0	—	—	—
編入学試験			2	2	2	1.0
国際バカロレア入学試験			0	—	—	—

今年度の傾向

神戸女学院大学・神戸女学院大学大学院の志願者数・合格者数・入学者数

2019年度入試は2018年度入試の影響を受けて、私立大学全般的に難化の傾向が見られました。本学においては志願者総数が2018年度入試と比べて微増の結果となりましたが、2019年度入試の特徴としては、文学部より人間科学部の志願者増の傾向が見られ、最終的に入学者数も同様の結果となりました。また、2019年度入試より公募制推薦入試を他大学との併願可とした音楽学部においても順調に志願者、入学者の確保ができました。

神戸女学院中高校

中学部					
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
志願者数	223	255	260	249	262
合格者数	157	162	158	159	155
入学者数	140	145	143	149	145
転入学者数	0	—	—	—	—
編入学者数	—	—	1	—	—

高等学部					
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
編入学者数	—	—	—	1	—

*高等学部 全日制課程 普通科 募集なし

留学状況

神戸女学院大学、大学院

本学から海外へ 総計 **136**人

プログラム	大学名	国名	人数	
派遣留学	ロックフォード大学	アメリカ	2	
	ワイオミング大学	アメリカ	2	
	ポーリンググリーン大学	アメリカ	2	
	イーストアングリア大学	イギリス	1	
	揚州大学	中国	1	
	ミリアム大学	フィリピン	2	
	アサンプション大学	フィリピン	2	
	タイキリスト教大学	タイ	1	
	国別集計		アメリカ	6
			イギリス	1
		中国	1	
		フィリピン	4	
		タイ	1	
長期派遣		計	13	

プログラム	大学名	国名	人数
認定留学	オーストラリアカトリック大学	オーストラリア	1
	カリフォルニア州立大学 チコ校	アメリカ	1
	モーツァルテウム音楽大学	オーストリア	2
		計	4

プログラム	大学名	国名	人数
中期 英語留学	チャタム大学	アメリカ	2
		計	2

プログラム	大学名	国名	人数
中期 海外研修	カリフォルニア大学 アーバイン校	アメリカ	3
	ヨーク大学	カナダ	13
	クイーンズランド大学	オーストラリア	6
		計	22

プログラム	大学名	国名	人数	
語学研修	夏期：ヨーク大学	カナダ	20	
	夏期： 西オーストラリア大学	オーストラリア	16	
	夏期：カリフォルニア大学 アーバイン校	アメリカ	9	
	夏期：昭和ポストン サマープログラム	アメリカ	3	
	夏期： フランシュコンテ大学	フランス	5	
	春期： クイーンズランド大学	オーストラリア	14	
	春期：ヨーク大学	イギリス	10	
	春期： 広東外語外貿大学	中国	6	
	春期：梨花女子大学	韓国	12	
	国別集計		カナダ	20
			オーストラリア	30
			イギリス	10
			アメリカ	12
		フランス	5	
		中国	6	
	韓国	12		
		計	95	

今年度の傾向

神戸女学院中学部の志願者数・合格者数・入学者数

2019年度入試における志願者数は、ここ近年では2年前の高水準をも上回るものとなりました。過去に比べ近年遠隔地受験者の入学の高まり傾向が見受けられ、今回はより慎重に入学者数の予測を試みた結果、トータル的に適正な入学者数145名を得る事が出来ました。

神戸女学院大学・神戸女学院大学大学院の留学について

2018年度本学からの海外留学（長期・短期）人数は136名で前年度比8名増となりました。特に派遣留学人数が13名（前年度比6名増）となったことはよい兆候です。次年度に向けてさらに学生の留学支援、特に語学試験対策を強化します。海外から本学への受入人数は史上初の台湾からの3名を含めて79名で前年度比5名増となりました。

海外から本学へ 総計 **79**人

プログラム	大学名	国名	人数	
交換留学	ポーリンググリーン大学	アメリカ	1	
	ワイオミング大学	アメリカ	1	
	イーストアングリア大学	イギリス	1	
	淑明女子大学	韓国	1	
	徳成女子大学	韓国	4	
	広東外語外貿大学	中国	2	
	揚州大学	中国	4	
	文藻外語大学	台湾	3	
	アサンプション大学	フィリピン	2	
	国別集計	アメリカ		2
		イギリス		1
		韓国		5
		中国		6
台湾			3	
	フィリピン		2	
長期受入		計	19	

プログラム	大学名	国名	人数
HONORS	ワイオミング大学	アメリカ	11
日本語	ワイオミング大学	アメリカ	10
-	ポーリンググリーン大学	アメリカ	13
SJCC	セントジョセフ・カレッジ・オブ・コマース	インド	5
JLCP	ミリアム大学	フィリピン	10
-	アサンプション大学	フィリピン	9
-	モーツァルテウム音楽大学	オーストリア	2
短期受入		計	60

神戸女学院中高部

本学から海外へ

プログラム	学校名	国名	人数
交換留学	Methodist Ladies' College	オーストラリア	1
		計	1

海外から本学へ

国名	人数
オーストラリア	1
タイ	1
計	2

卒業・修了・博士後期課程単位取得退学、博士学位授与の状況

神戸女学院大学

	文学部		音楽学部	人間科学部		計
	英文学科	総合文化学科	音楽学科	心理・行動科学科	環境・ バイオサイエンス 学科	
2014年度	149	203	52	105	97	606
2015年度	169	225	40	104	91	629
2016年度	154	214	50	90	84	592
2017年度	167	216	32	95	95	605
2018年度	171	214	48	87	88	608

*前期末(当該年度9月)卒業を含む

神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	文学研究科		音楽研究科	人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	音楽芸術表現専攻	人間科学専攻	
2014年度	5	4	4	10	23
2015年度	4	6	9	10	29
2016年度	5	1	9	10	25
2017年度	4	0	8	11	23
2018年度	8	2	6	9	25

*前期末(当該年度9月)卒業を含む

博士後期課程

博士後期課程単位取得退学

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	人間科学専攻	
2014年度	—	1	—	1
2015年度	1	—	—	1
2016年度	1	—	3	4
2017年度	1	—	—	1
2018年度	—	—	—	0

博士学位授与

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	人間科学専攻	
2014年度	1	—	—	1
2015年度	2	—	1	3
2016年度	1	—	—	1
2017年度	—	—	—	0
2018年度	—	—	—	0
博士後期課程 設置当初からの 累計	9	2	13	24

神戸女学院中高部

中学部		高等学部	
2014年度	141	2014年度	143
2015年度	139	2015年度	139
2016年度	140	2016年度	128
2017年度	139	2017年度	138
2018年度	142	2018年度	134

就職・進学状況

神戸女学院大学

2018年度の就職率（就職希望者に対する就職者の比率）は98.8%で前年度並みの数値を確保できました。企業の採用意欲が高かったこともあり、ここ数年高く安定した数字で推移しています。産業別にみるとメガバンク採用減の報道が影響したためか金融業・保険業が減少し、製造業、情報通信業が増加しました。

主な就職先（2019年3月卒業生）

建設業	運輸業、郵便業	北陸銀行	三井不動産ビルマネジメント
大和ハウス工業	全日本空輸	関西みらい銀行	三井不動産リアルティ
熊谷組	ANA ウィングス	但馬銀行	三菱 UFJ 不動産販売
積水ハウス	ANA エアポートサービス	みなと銀行	宿泊業
製造業	ANA 大阪空港	南都銀行	ウェスティンホテル大阪
あみだ池大黒	ANA 関西空港	紀陽銀行	共立メンテナンス
アルインコ	ANA 中部空港	山陰合同銀行	近鉄・都ホテルズ
伊藤園	日本航空	広島銀行	神戸ポートピアホテル
ウッドワン	ジェイエア	阿波銀行	ヒルトン大阪
オリエンタルモーター	JAL スカイ	四国銀行	星野リゾートグループ
オンワード樫山	JAL スカイ大阪	鹿児島銀行	医療、福祉
川本産業	K スカイ	信金中央金庫	社会保険診療報酬支払基金
極東開発工業	エアアジア・ジャパン	尼崎信用金庫	独立行政法人国立病院機構
KB セーレン	スカイマーク	但陽信用金庫	近畿グループ
シーボン	京阪電気鉄道	播州信用金庫	野崎徳洲会病院
指月電機	ジェイアール東海	広島信用金庫	淀川キリスト教病院
シュゼット	パッセンジャーズ	SMBC 日興証券	教育、学習支援業
ストライプインターナショナル	西日本旅客鉄道	大和証券	神戸市中学校高等学校教員
住友電気工業	上組	野村證券	日能研関西
TASAKI	後藤回漕店	みずほ証券	サービス業
田辺三菱製薬	佐川急便	あいおいニッセイ同和損害保険	アデコ
チャコット	日本交通	東京海上日動火災保険	エスクリ
ディーエイチシー	日本通運	東京海上日動安心 110 番	NTT ファシリティーズ関西
デンヨー	ヤマト運輸	三井住友海上火災保険	劇団ひまわり
東芝エレベータ	卸売業、小売業	住友生命保険	セコム
日本圧着端子製造	アズワン	第一生命保険	総合警備保障
ハイレックスコーポレーション	大月真珠	大同生命保険	パリューマネジメント
バンドー化学	サンセイテクノス	大樹生命保険	マイナビ
フォクシー	資生堂ジャパン	日本生命保険	リクルート
富士シート	第一実業	明治安田生命保険	ワタベウェディング
ポッカサッポロフード&ビバレッジ	ダイワボウ情報システム	兵庫六甲農業協同組合	公務
桃谷順天館	トラスコ中山	キュービタス	大阪府
ヤンマー	はるやま商事	三井住友 トラスト・ビジネスサービス	大阪市
ライオン事務器	ホンダカーズ大阪	不動産業	加古川市
ロックベイント	村中医療器	住友不動産販売	たつの市
ガス業	モリタ	阪急阪神ビルマネジメント	五條市
大阪ガス	ヤナセ	三井住友トラスト不動産	警視庁
情報通信業	山善		兵庫県警察
日本放送協会（NHK）	リョーサン		
青森放送	ルイ・ヴィトン ジャパン		
神戸新聞社	ロクシタンジャパン		
大塚商会	金融業、保険業		
東京コンピュータサービス	三菱 UFJ 銀行		
トランスコスモス	ゆうちょ銀行		
富士ソフト	日本マスタートラスト信託銀行		
	三井住友信託銀行		

備考

- ・前期末卒業を含まない
- ・就職者：正規の職員・従業員、自営業主等（音楽講師等、自営とみなした者を含む）
正規の職員ではない者（雇用期間が1年以上かつフルタイム勤務相当の者）
- ・進学者：大学院進学者のみ
- ・社名は、変更されている場合があります

神戸女学院大学

主な進学先（2019年3月卒業生） 年度毎の就職決定状況

学校名	卒業者数	希望者数	決定者数	決定者／希望者	進学者数	決定者／ (卒業者－進学者)
英文学科						
神戸女学院大学大学院 文学研究科						
同志社大学大学院 ビジネス研究科						
関西学院大学大学院 国際学研究科						
総合文化学科						
神戸女学院大学大学院 文学研究科						
神戸大学大学院 人文学研究科						
神戸大学大学院 国際文化学研究科						
梅花女子大学大学院 文学研究科						
音楽学科						
神戸女学院大学大学院 音楽研究科						
心理・行動科学科						
神戸女学院大学大学院 人間科学研究科						
大阪樟蔭女子大学大学院 人間科学研究科						
武庫川女子大学大学院 文学研究科						
梅花女子大学大学院 現代人間学研究科						
鳴門教育大学大学院 学校教育研究科						
環境・バイオサイエンス学科						
神戸女学院大学大学院 人間科学研究科						
大阪大学大学院 生命機能研究科						
神戸大学大学院 医学研究科						
兵庫県立大学大学院 環境人間学研究科						
兵庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科						
奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科						
九州大学大学院 生物資源環境科学府						
2014年度（2015年3月卒業生）						
英文	145	130	129	99.2%	3	90.8%
総合文化	198	177	174	98.3%	5	90.2%
音楽	50	26	22	84.6%	6	50%
心理・行動	103	90	88	97.8%	9	93.6%
環境・バイオサイエンス	96	77	72	93.5%	12	85.7%
総計	592	500	485	97%	35	87.1%
2015年度（2016年3月卒業生）						
英文	168	153	151	98.7%	2	91%
総合文化	222	204	202	99%	4	92.7%
音楽	40	18	15	83.3%	8	46.9%
心理・行動	104	85	82	96.5%	14	91.1%
環境・バイオサイエンス	91	79	78	98.7%	5	90.7%
総計	625	539	528	98%	33	89.2%
2016年度（2017年3月卒業生）						
英文	152	137	135	98.5%	8	93.8%
総合文化	209	191	188	98.4%	3	91.3%
音楽	50	21	21	100%	7	48.8%
心理・行動	90	82	81	98.8%	6	96.4%
環境・バイオサイエンス	83	74	74	100%	4	93.7%
総計	584	505	499	98.8%	28	89.7%
2017年度（2018年3月卒業生）						
英文	165	149	148	99.3%	3	91.4%
総合文化	212	188	185	98.4%	5	89.4%
音楽	32	18	18	100%	4	64.3%
心理・行動	95	80	80	100%	7	90.9%
環境・バイオサイエンス	94	78	77	98.7%	6	87.5%
総計	598	513	508	99%	25	88.7%
2018年度（2019年3月卒業生）						
英文	169	157	156	99.4%	3	94.0%
総合文化	211	199	196	98.5%	4	94.7%
音楽	47	22	22	100%	7	55.0%
心理・行動	86	63	61	96.8%	16	87.1%
環境・バイオサイエンス	88	74	74	100%	8	92.5%
総計	601	515	509	98.8%	38	90.4%

神戸女学院中高部

進学状況は非公表

役員・評議員 (2018年5月1日現在)

理事

第1号理事 院長(理事長) 定員1名、現員1名 飯 謙	第6号理事 コーポレーション ^{※2} 推薦 理事会選任 定員3名、現員3名 伊藤栄子 原田恵子 溝口 薫
第2号理事 学長 定員1名、現員1名 斉藤言子	第7号理事 理事会選任学識経験者 定員4名、現員4名 柴谷享一郎 菅根信彦 桂 充弘 橋本恵里子
第3号理事 中高部長 定員1名、現員1名 林 真理子	監事 定員2名、現員2名 野木芳子 下村俊子
第4号理事 めぐみ会 ^{※1} 推薦会員で理事会選任 定員3名、現員3名 浦邊純子 和氣節子 松本真千子	
第5号理事 評議員会選任 定員2名、現員2名 辻 毅一郎 石割初子	

※1 めぐみ会…正式名称「公益社団法人神戸女学院めぐみ会」は、キリストの教えに基づく神戸女学院の立学の精神を重んじて、その教育の振興を助成し、会員の教養を高め相互の親睦を図るとともに、社会に貢献することを目的とした組織です。めぐみ会の主たる会員は、神戸女学院が設置した学校の卒業生です。(在校生は準会員)
 ※2 コーポレーション…正式名称「Kobe College Corporation」は、神戸女学院の維持管理と募金のためにアメリカ合衆国イリノイ州シカゴに設立された財団であり、1920年の設立時より現在に至るまで本学院のための募金活動を続け、現在では主に、中高部英語教員や大学客員教員の派遣、本学学生への海外インターンシップの機会提供、奨学金などの支援を行っています。

評議員

第1号評議員 学識経験者(理事会選任) 定員11名、現員11名 橋本恵里子 竹中禮子 伊藤良子 関本雅子 佐藤容子 石田忠範 芹野與幸 辻 毅一郎 内藤 能 久保田哲夫 西澤他喜衛	第3号評議員 教職員(理事会推薦評議員会選任) 定員8名、現員8名 中野敬一 小林哲郎 溝口 薫 大門光歩 喜多牧子 北田京子 住野秀樹 林 典宏
第2号評議員 卒業生(めぐみ会推薦評議員会選任) 定員8名、現員8名 石割初子 中川玲子 梅田玲子 小澤妙子 大橋悦子	第4号評議員 コーポレーション推薦 評議員会選任 定員4名、現員4名 Martha Mensendiek 馬場美奈子 水野多美 小澤純子

教職員 (2018年5月1日現在)

在籍教職員数

	教授	准教授	専任講師	助教	任期制教員	特任教授	特任助教	客員教員	客員研究員	特別客員	計
英文学科	7	7	2	0	0	0	0	1	0	0	17
総合文化学科	12	9	3	0	0	0	0	0	1	0	25
音楽学科	7	3	0	0	3	0	0	2	0	0	15
心理・行動科学科	6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	11
環境・バイオサイエンス学科	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0	11
一般(体育)	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
共通英語教育研究センター	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
計	43	27	7	0	3	0	0	3	1	0	84

	教諭
高等学部	22
中学部	21
計	43

	専任事務職員	専任労務職員	契約職員	計
法人	20	0	1	21
大学	48	0	5	53
中高部	5	0	0	5
計	73	0	6	79

	嘱託事務職員	嘱託教学職員	計
週5日	0	0	0
週4日	3	9	12
週3日	1	4	5
週2日	0	5	5
週1日	0	0	0
計	4	18	22

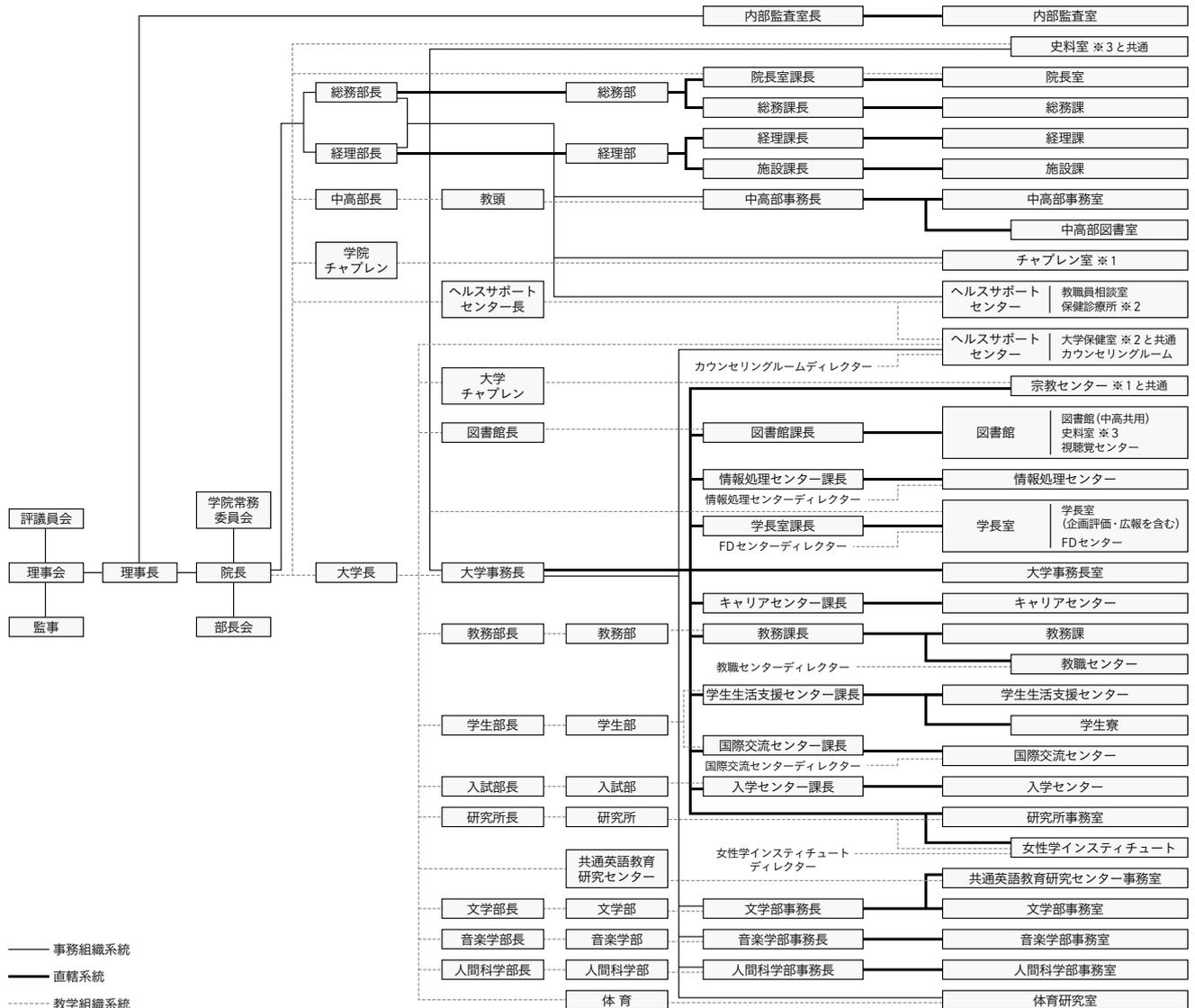
在籍教職員数推移

		2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
大学	専任教員	88	88	89	91	84
	非常勤講師	327	321	317	309	362
	大学計	415	409	406	400	446
中高部	専任教員	42	42	40	42	43
	非常勤講師	20	16	16	16	23
	中高計	62	58	56	58	66
計		477	467	462	458	512

		2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
法人	専任職員*	72	76	77	75	79
	嘱託職員	35	28	25	22	22
計		107	104	102	97	101

※契約職員含む

事務組織図 (2018年5月1日現在)



財務の概要

学校法人会計とは

学校法人とは、学校教育法及び私立学校法の定めるところにより、私立学校の設置を目的として設立された法人です。企業は営利追求を目的としますが、学校法人は永続的な教育研究活動という極めて公共性の高い事業遂行を目的としており、今後の活動を継続的かつ安定的に遂行するため、収支の均衡状況や財政状態を正確に捉えることが重要となります。このように、学校法人と企業とは目的が異なるため、学校法人は企業会計基準とは別の会計基準が必要となります。

一方、国または地方公共団体より補助金の交付を受ける学校

法人は、経理内容の透明性・信頼性を確保すべく、「私立学校振興助成法」において、文部科学大臣の定める基準に従い計算書類を作成し、外部監査を受けて所轄庁へ届出することが義務付けられています。

このように、学校法人の目的に合致し、私学助成を受ける学校法人が遵守すべき統一的な会計処理基準として「学校法人会計基準」が定められています。これに従い、本学院も「事業活動収支計算書」「資金収支計算書」「貸借対照表」などの財務書類を作成し公開しています。

2018年度決算の概要

事業活動収支をみると、事業活動収入計は51億40百万円、事業活動支出計は50億42百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は98百万円となりました。当該収支差額は、教育活動収支差額25百万円、教育活動外収支差額52百万円、特別収支差額20百万円によって構成されています。

(金額は単位未満を切捨表示しているため、内訳を加減算したものと合計額・差引額は一致しません。2014年度の数値は新会計基準ベースに組み替えて表示しています。以下同じ。)

まず、教育活動収入(50億57百万円、前年度比△20百万円)をみると、学生生徒等納付金(41億14百万円、前年度比△16百万円)は中高部において在籍者数が微増した一方、大学及び大学院の在籍者数は微減し、全体の収入はやや減少しました。手数料(1億7百万円、前年度比+4百万円)は、大学において2018年度入試の影響を受け私立大学全般的に難化の傾向にありましたが、人間科学部や音楽学部の志願者が増加し、全体では微増となりました。寄付金(1億24百万円、前年度比+33百万円)は遺贈をはじめとする複数の大口寄付を頂いたことに加え、教育振興会への寄付件数も増加しており、収入増に寄与しました。経常費等補助金(4億30百万円、前年度比△1億円)は、前年度大学ITリプレイスによる教育研究経費増の影響で例年より増額となった大学の私立大学等経常費補助金(一般補助)の特殊要因の剥落から増減率がマイナスに影響、更に私立大学等改革総合支援事業も不採択となり、大学において大幅な収入減となりました。一方、中高部の兵庫県経常費補助金については、前年度から7百万円の増収となっています。雑収入(2億20百万円、前年度比+76百万円)は、私学退職金財団交付金(1億71百万円、前年度比+1億20百万円)が主で、長期勤続者が例年より多く退職したことによる増加です。その他、台風21号被害に係る保険金収入(10百万円)や、貸与奨学金に係る徴収不能引当金戻入額も含まれています。

一方、教育活動支出(50億32百万円、前年度比+1億49百万円)をみると、人件費(31億62百万円、前年度比+1億3百万円)は退職関連費用の増加が主な増加要因です。教育研究経費(15億27百万円、前年度比+80百万円)は、重要文化財の美装化事業として、理学館および総務館の美装化工事を実施、その他施設維持費用や学生生徒の安全確保を図るための警備強化費用など、修繕費や業務委託費が増加しています。管理経費(3億

41百万円、前年度比△30百万円)は、前年度実施した各種ホームページのリニューアルも概ね終了し、前年度計上していた社交館食堂の机椅子の現物寄付受入による消耗品費増という特殊要因も剥落したため減少しています。

以上のような要因により、教育活動収支差額は25百万円(前年度比△1億69百万円)となりました。

次に、教育活動外収支についてみると、2018年度も低金利の中、金銭信託運用益の確保に努め、前年度比減となるものの、受取利息・配当金は53百万円確保することができました。一方、借入金の無利息期間が終了したことにより借入金利息は微増し、教育活動外収支差額は52百万円(前年度比△90百万円)となりました。

さらに、特別収支についてみると、前年度は六甲セミナーハウス等の売却等による資産売却差額(16百万円)を計上していましたが、2018年度は車両買替えによる売却差額のみ計上、その他の特別収入は、重要文化財美装化事業補助金(25百万円)や大学図書館で電子書籍購入のための私立大学等研究設備整備費等補助金(2百万円)等を計上し、特別収入は29百万円(前年度比△40百万円)となりました。一方、特別支出として、主に老朽化に伴う取替により発生した研究機器や図書等の除却損(7百万円、前年度比△6百万円)などを計上し、特別収支差額は20百万円(前年度比△35百万円)となりました。

これらの3活動により、基本金組入前当年度収支差額は98百万円となり、講堂・総務館耐震改修工事や大学図書館システム更新等による固定資産の増加や建物借入金の返済など、資産取得にかかる支出額から除却・売却による減少額を控除した第1号基本金組入(1億40百万円)、および奨学基金等への計画的な組入れとして第3号基本金組入(40百万円)、合計1億80百万円の基本金組入を行った結果、当年度収支差額は△82百万円(前年度比△3億92百万円)となりました。当年度収支差額に前年度繰越収支差額(△12億16百万円)を加味した結果、翌年度繰越収支差額は△12億98百万円となりました。

資金収支をみると、事業活動収支で述べたような減収、費用増加要因に加え、学生生徒の学習環境整備等のための支出も増加したため、前年度のような資金増(+4億35百万円)とはならなかったものの、キャッシュベースの収入合計51億12百万円、支出合計49億88百万円を計上したことにより、翌年度繰越支払資金は31億18百万円(前年度比+1億24百万円)となりました。

事業活動収支計算書

(単位：百万円)

事業活動収支計算書は、当該会計年度の3つの活動(①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、③その他の活動)に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内訳を示し、経常収支(①教育活動収入と②教育活動外収入)と臨時的な収支(③特別収入)を明らかにするため、また、基本金組入後の収支均衡状態を明らかにするために作成します。2018年度の事業活動収支計算書の概要は次のとおりです。

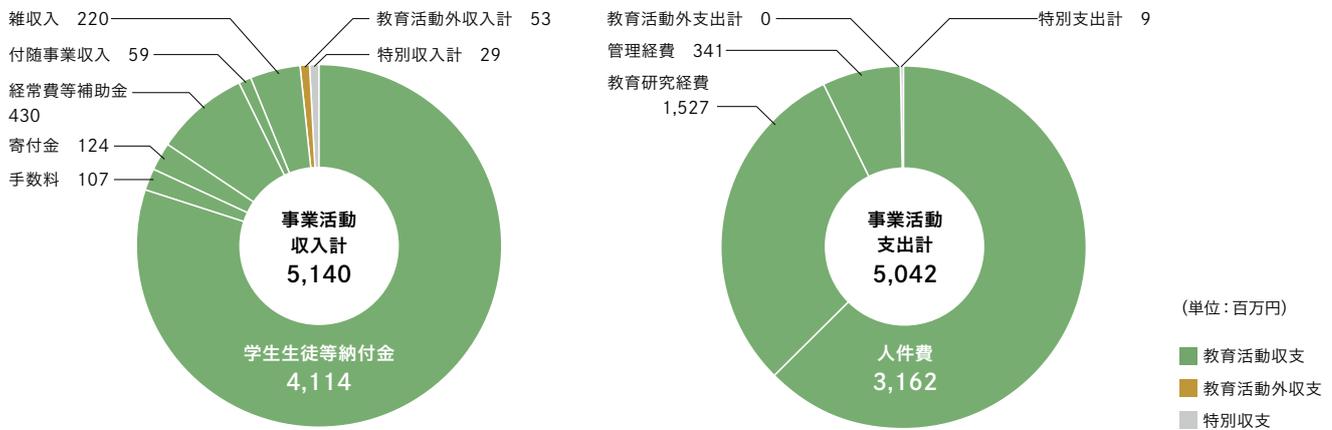
教育活動収支	経常的な収支のうち、本業である教育研究活動の収支。
教育活動外収支	主に財務活動(資金調達と資産運用に係る活動)の収支。
経常収支差額	経常的な事業活動による収入(経常収入)とコスト(経常支出)の収支差額(バランス)。
特別収入	特殊要因による臨時的な事業活動収入(施設設備取得に対する補助金等)や資産売却損益等。
基本金組入前当年度収支差額	旧帰属収支差額。単年度における事業活動全体の収支差額。
基本金組入額合計	学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額。
当年度収支差額	旧消費収支差額。基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を控除した額。長期的収支バランスの判断指標。
前年度繰越収支差額	
翌年度繰越収支差額	当年度収支差額の累積額。
事業活動収入	旧帰属収入。借入金収入や前受金収入等の負債となる収入を除いた正味の収入(現物寄付を含む)。
事業活動支出	旧消費支出。資金支出のない減価償却費や資産処分差額等も含まれ、学校法人の正味の費用。

科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)
事業活動収入の部				
学生生徒等納付金	4,115	4,114	4,131	△ 16
手数料	98	107	102	4
寄付金	53	124	90	33
経常費等補助金	419	430	531	△ 100
付随事業収入	61	59	76	△ 17
雑収入	214	220	144	76
教育活動収入計	4,962	5,057	5,077	△ 20
事業活動支出の部				
人件費	3,147	3,162	3,059	103
教育研究経費	1,542	1,527	1,447	80
管理経費	361	341	371	△ 30
徴収不能額等	-	-	4	△ 4
教育活動支出計	5,051	5,032	4,882	149
教育活動収支差額	△ 89	25	194	△ 169
事業活動収入の部				
受取利息・配当金	53	53	143	△ 89
教育活動外収入計	53	53	143	△ 89
事業活動支出の部				
借入金等利息	0	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0	0
教育活動外収支差額	52	52	142	△ 90
経常収支差額	△ 37	77	337	△ 259
事業活動収入の部				
資産売却差額	0	0	16	△ 16
その他の特別収入	99	29	54	△ 24
特別収入計	99	29	70	△ 40
事業活動支出の部				
資産処分差額	9	7	13	△ 6
その他の特別支出	2	2	0	1
特別支出計	11	9	14	△ 4
特別収支差額	87	20	56	△ 35
基本金組入前当年度収支差額	50	98	393	△ 295
基本金組入額合計	△ 181	△ 180	△ 83	△ 96
当年度収支差額	△ 130	△ 82	310	△ 392
前年度繰越収支差額	△ 1,216	△ 1,216	△ 1,528	311
基本金取崩額	-	-	1	△ 1
翌年度繰越収支差額	△ 1,346	△ 1,298	△ 1,216	△ 82

(参考)

事業活動収入計	5,114	5,140	5,291	△ 150
事業活動支出計	5,063	5,042	4,897	144

事業活動収支の内訳



事業活動収支推移 (収入・支出)

(単位: 百万円)

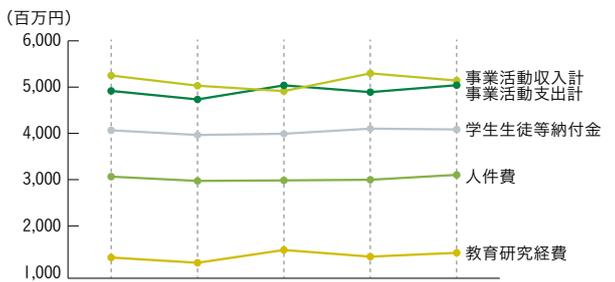
科目	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
事業活動収入計	5,246	5,033	4,918	5,291	5,140
事業活動支出計	4,922	4,743	5,039	4,897	5,042
基本金組入額	403	370	348	83	180
学生生徒等納付金	4,093	4,001	4,024	4,131	4,114
手数料	94	94	89	102	107
補助金(教育+特別)	515	496	471	546	458
人件費	3,122	3,035	3,046	3,059	3,162
教育研究経費	1,428	1,318	1,586	1,447	1,527
管理経費	355	374	349	371	341

事業活動収支推移 (収支差額)

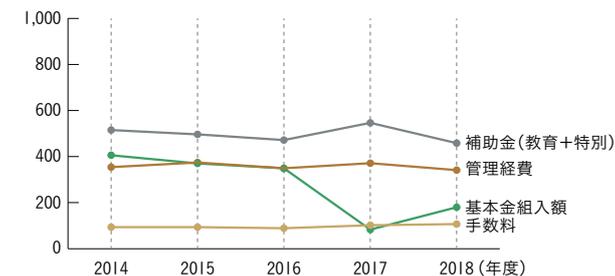
(単位: 百万円)

科目	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
教育活動収支差額	212	134	△142	194	25
教育活動外収支差額	64	93	49	142	52
経常収支差額	276	227	△92	337	77
特別収支差額	47	63	△28	56	20
基本金組入前当年度収支差額	323	290	△120	393	98
当年度収支差額	△80	△79	△469	310	△82

1,000～6,000 百万円



0～1,000 百万円



(百万円)



資金収支計算書

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金（現金預金）の収入及び支出のてん末を明らかにするために作成します。2018年度の資金収支計算書の概要は次のとおりです。

資金収支計算書

(単位：百万円)

収入の部				
科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)
学生生徒等納付金収入	4,115	4,114	4,131	△ 16
手数料収入	98	107	102	4
寄付金収入	122	124	109	14
補助金収入	448	458	546	△ 87
資産売却収入	0	0	37	△ 37
付随事業・収益事業収入	61	59	76	△ 17
受取利息・配当金収入	53	53	143	△ 89
雑収入	214	219	111	107
借入金等収入	-	-	-	-
前受金収入	686	716	682	34
その他の収入	77	140	124	15
資金収入調整勘定	△ 855	△ 882	△ 784	△ 98
前年度繰越支払資金	2,993	2,993	2,558	435
収入の部合計	8,014	8,106	7,841	265

(参考)

収入の部合計 - 前年度繰越支払資金	5,021	5,112	5,282	△ 170
--------------------	-------	-------	-------	-------

収入の部

資金収入を伴わない収入（現物寄付金等）は「事業活動収支計算書」に計上されていますが、「資金収支計算書」には含まれません。一方、負債の増加を伴う収入（借入金、前受金等）や資産の現金化（貸与奨学金の返済等）に伴う入金取引は「資金収支計算書」に計上されていますが、収益取引ではないため、「事業活動収支計算書」には含まれません。「事業活動収支計算書」と重複する科目については前述をご参照下さい。

2018年度も新規借入はなく、借入金等収入は計上していません。前受金収入（7億16百万円、前年度比+34百万円）については、大学において、人間科学部および音楽学部の入学者が増加したこと等により、例年並みであった前年度よりも入学者数が増加（+20名）したことによる増加です。

その他の収入（1億40百万円、前年度比+15百万円）は、私学退職金財団交付金収入や補助金収入で構成される前期末未収入収入の減少（△33百万円）、退職給与引当金の減少に伴う退職給与引当特定資産取崩収入が減少（△15百万円）する一方、講堂・総務館耐震改修工事や理学館・総務館美装化工事費用に充当するための岡田山建築保存引当特定資産の目的取崩（63百万円）により増加しています。

資金収入調整勘定（△8億82百万円、前年度比△98百万円）についてみると、私学退職金財団からの期末未収入金が増加したことによるマイナス増です。

上記の内容に、前年度繰越支払資金増（前年度比+4億35百万円）も加味した結果、収入の部合計は、81億6百万円（前年度比+2億65百万円）となりました。

支出の部				
科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)
人件費支出	3,157	3,170	3,052	117
教育研究経費支出	1,213	1,198	1,117	81
管理経費支出	334	314	326	△ 12
借入金等利息支出	0	0	0	0
借入金等返済支出	13	13	55	△ 42
施設関係支出	60	62	57	4
設備関係支出	122	119	86	32
資産運用支出	67	109	92	16
その他の支出	197	198	245	△ 47
資金支出調整勘定	△ 109	△ 197	△ 186	△ 11
翌年度繰越支払資金	2,957	3,118	2,993	124
支出の部合計	8,014	8,106	7,841	265

(参考)

支出の部合計 - 翌年度繰越支払資金	5,057	4,988	4,847	140
--------------------	-------	-------	-------	-----

支出の部

資金支出を伴わない支出（減価償却費、資産処分差額等）は「事業活動収支計算書」に計上されていますが、「資金収支計算書」には含まれません。一方、資産の入替（奨学金の貸与）、負債の減少（借入金の返済等）、資金支出時に費用にならない（将来費用化される）支出（施設関係支出、設備関係支出、前払金支払支出等）などは、「資金収支計算書」には計上されますが、「事業活動収支計算書」には含まれません。「事業活動収支計算書」と重複する科目については前述をご参照下さい。

借入金については、2018年度も約定返済を実施しており、借入金の無利息期間が終了したことから利息支出が微増しました。

施設関係支出については、講堂・総務館耐震改修工事や第二体育館1階空調設備工事、中高部1号館2階をはじめとする各種トイレ改修工事などにより、62百万円の支出となりました。一方、設備関係支出については、大学図書館システム更新、研究機器の購入、中高部1号館ロッカー室空調換気設備改修工事などにより、1億19百万円となりました。

上記の結果に資金支出調整勘定を加味すると、資金支出額は前年度比+1億40百万円の増加となり、翌年度繰越支払資金は31億18百万円（前年度比+1億24百万円）となりました。

活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書の決算額を3つの活動（①教育活動、②施設・設備の取得又は売却その他これに類する活動、③資金調達その他①②にかかる活動以外の活動）に区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにするために作成します。

2018年度の活動区分資金収支計算書は次のとおりです。

(単位：百万円)

		科目	本年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	4,114	4,131	△ 16
		手数料収入	107	102	4
		特別寄付金収入	123	74	49
		経常費等補助金収入	430	531	△ 100
		付随事業収入	59	76	△ 17
		雑収入	219	111	107
		教育活動資金収入計	5,055	5,028	27
	支出	人件費支出	3,170	3,052	117
		教育研究経費支出	1,198	1,117	81
		管理経費支出	311	326	△ 14
		教育活動資金支出計	4,680	4,496	184
		差引	374	532	△ 157
	調整勘定等	△ 76	△ 54	△ 22	
	教育活動資金収支差額	298	478	△ 179	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	0	34	△ 34
		施設設備補助金収入	28	15	13
		施設設備売却収入	0	37	△ 37
		施設整備等活動資金収入計	28	87	△ 58
	支出	施設関係支出	62	57	4
		設備関係支出	119	86	32
		岡田山建築保存引当特定資産繰入支出	-	31	△ 31
		施設整備等活動資金支出計	181	175	5
		差引	△ 152	△ 88	△ 64
		調整勘定等	△ 56	△ 23	△ 33
		施設整備等活動資金収支差額	△ 209	△ 111	△ 98
		小計（教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額）	88	366	△ 277
その他の活動による資金収支	収入	退職給与引当特定資産取崩収入	7	23	△ 15
		岡田山建築保存引当特定資産取崩収入	63	-	63
		貸与奨学金回収収入	37	34	3
		差入保証金回収収入	-	0	△ 0
		預り金収入	2	3	△ 1
		小計	110	61	49
		受取利息・配当金収入	53	143	△ 89
	その他の活動資金収入計	164	205	△ 40	
	支出	借入金等返済支出	13	55	△ 42
		第3号基本金引当特定資産繰入支出	40	61	△ 20
		岡田山建築保存引当特定資産繰入支出	68	-	68
		出資金支出	0	0	0
		貸与奨学金支払支出	2	20	△ 17
		差入保証金支出	0	0	△ 0
		小計	124	136	△ 11
		借入金等利息支出	0	0	0
		過年度修正支出	2	0	1
		その他の支出	0	-	0
		その他の活動資金支出計	128	137	△ 9
		差引	36	67	△ 31
		調整勘定等	△ 0	0	△ 1
	その他の活動資金収支差額	35	68	△ 32	
	支払資金の増減額（小計+その他の活動資金収支差額）	124	435	△ 310	
	前年度繰越支払資金	2,993	2,558	435	
	翌年度繰越支払資金	3,118	2,993	124	

貸借対照表

貸借対照表は、会計年度末の財政状態（運用形態と調達源泉）を明らかにするために作成します。
2018年度の貸借対照表の概要は次のとおりです。

貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
固定資産	15,485	15,663	△ 178
有形固定資産	8,448	8,614	△ 166
土地	1,340	1,340	0
建物	4,056	4,195	△ 138
構築物	474	502	△ 28
教育研究用機器備品	494	509	△ 15
管理用機器備品	30	26	3
図書	2,050	2,036	14
車両	1	0	0
建設仮勘定	-	2	△ 2
特定資産	6,389	6,350	38
第3号基本金引当特定資産	1,630	1,589	40
退職給与引当特定資産	1,438	1,445	△ 7
減価償却引当特定資産	3,136	3,136	0
岡田山建築保存引当特定資産	184	178	5
その他の固定資産	647	698	△ 51
電話加入権	3	3	0
ソフトウェア	48	65	△ 16
有価証券	406	406	0
差入保証金	3	3	0
出資金	20	20	0
貸与奨学金	162	197	△ 34
その他	0	0	0
流動資産	3,350	3,048	301
現金預金	3,100	2,976	124
修学旅行費預り資産	17	17	0
未収入金	212	41	170
前払金	20	13	6
資産の部合計	18,835	18,712	123

負債の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
固定負債	1,608	1,630	△ 21
長期借入金	170	183	△ 13
長期未払金	-	1	△ 1
退職給与引当金	1,438	1,445	△ 7
流動負債	1,031	984	46
短期借入金	13	13	0
未払金	189	180	9
前受金	716	682	34
預り金	94	91	2
修学旅行費預り金	17	17	0
負債の部合計	2,639	2,614	25

純資産の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
基本金	17,494	17,314	180
第1号基本金	15,510	15,370	140
第3号基本金	1,630	1,589	40
第4号基本金	354	354	0
繰越収支差額	△ 1,298	△ 1,216	△ 82
翌年度繰越収支差額	△ 1,298	△ 1,216	△ 82
純資産の部合計	16,195	16,097	98
負債及び純資産の部合計	18,835	18,712	123

資産の部

【固定資産】154億85百万円（前年度比△1億78百万円）

有形固定資産（84億48百万円、前年度比△1億66百万円）については、講堂・総務館耐震改修工事や大学図書館システム更新、文学部1号館（LA1-1）改修工事、中上部第二体育館1階空調設備工事などを計画的に実施しましたが、減価償却による資産の減少の影響が大きく、有形固定資産の総額は減少しています。

特定資産（63億89百万円、前年度比+38百万円）については、銀行預金、金銭信託、地方債等で運用しています。退職給与引当金の減少に伴い、退職給与引当特定資産は減少（△7百万円）、また、講堂・総務館耐震改修工事および理学館・総務館美装化工事費用のうち、補助金で賄えなかった自費対応分を岡田山建築保存引当特定資産の取崩により補填しました。一方、教育振興会等による寄付金収入の第3号基本金への組入額や、岡

田山建築保存引当特定資産への繰入額が多かったため、特定資産の総額は増加しています。

その他の固定資産（6億47百万円、前年度比△51百万円）については、繰上返済等による貸与奨学金残高の減少（△34百万円）や、減価償却によるソフトウェアの減少（△16百万円）が資産減の主な要因です。

【流動資産】33億50百万円（前年度比+3億1百万円）

未収入金（2億12百万円、前年度比+1億70百万円）は、主に退職金財団からの交付金および補助金の期末未収入金で構成されています。今年度は理学館・総務館美装化工事にかかる施設整備費補助金（25百万円）等の期末未収入金が計上されているほか、長期勤続者の退職により退職金財団からの期末未収入金が前年度よりも多く、未収入金は大幅増となりました。また、資金収支計算書の記述のとおり、現金預金も増加しています。

負債の部

【固定負債】16億8百万円（前年度比△21百万円）

借入先は私立学校振興・共済事業団のみであり、約定返済による短期借入金への振替により長期借入金が減少（△13百万円）しています。割賦購入による長期未払金は、短期への振替により残高ゼロとなりました。退職給与引当金は人員構成の変動等に伴い減少しています。

【流動負債】10億31百万円（前年度比+46百万円）

2019年4月の入学者数が増加したことにより、前受金が増加（+34百万円）したことが主な増加要因です。借入金の約定返済額に変動はなく、期末未払金の金額も前年度並みとなりました。

純資産の部

【基本金】174億94百万円（前年度比+1億80百万円）

第1号基本金は、保有する固定資産のうち教育の用に供されるものや、教育の充実向上のために取得した固定資産の価額を組み入れたものであり、2018年度は、講堂・総務館耐震改修工事や図書館システムの更新などの資産取得、借入金の返済や前年度の期末未払分を支払ったことにより組入額が増加（+1億40百万円）しました。第3号基本金は、奨学金などの教育研究活動に対して基金の運用果実をもって運営するために組み入れるもので、教育振興会等の寄付金の組入れにより増加（+40百万円）しました。

【繰越収支差額】△12億98百万円（前年度比△82百万円）

事業活動収支計算書の当年度収支差額の累計額が計上されており、長期的な収支バランスを表しています。

貸借対照表の推移

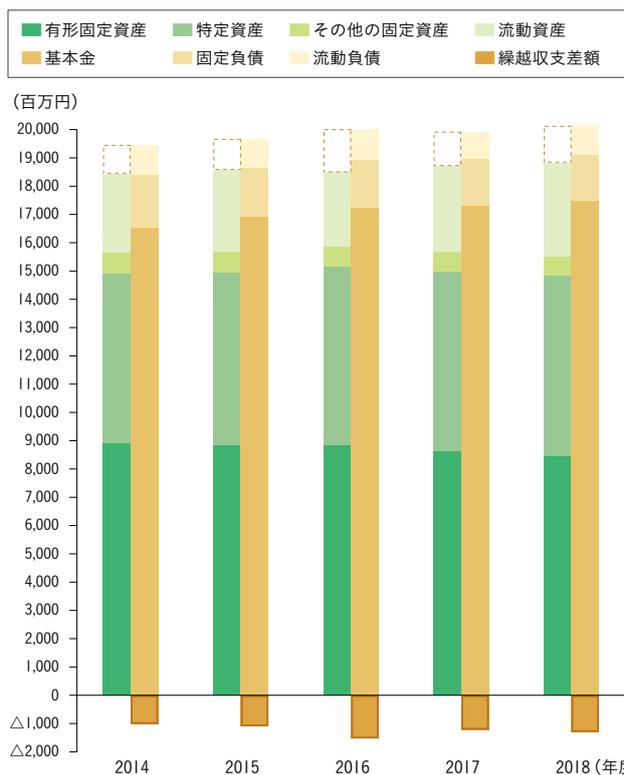
（単位：百万円）

資産の部					
科目	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
有形固定資産	8,905	8,828	8,843	8,614	8,448
特定資産	5,976	6,121	6,281	6,350	6,389
その他の固定資産	744	710	731	698	647
流動資産	2,816	2,918	2,632	3,048	3,350
合計	18,443	18,577	18,488	18,712	18,835

（単位：百万円）

負債及び純資産の部					
科目	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
固定負債	1,856	1,723	1,669	1,630	1,608
流動負債	1,052	1,029	1,115	984	1,031
基本金	16,550	16,920	17,232	17,314	17,494
繰越収支差額	△1,016	△1,095	△1,528	△1,216	△1,298
合計	18,443	18,577	18,488	18,712	18,835

【参考】純資産	15,534	15,824	15,704	16,097	16,195
---------	--------	--------	--------	--------	--------



財務比率の推移

過去5年間の事業活動収支計算書、貸借対照表の財務諸比率の推移は次のとおりです。

(財務諸比率は単位未満を四捨五入して表示しています。)

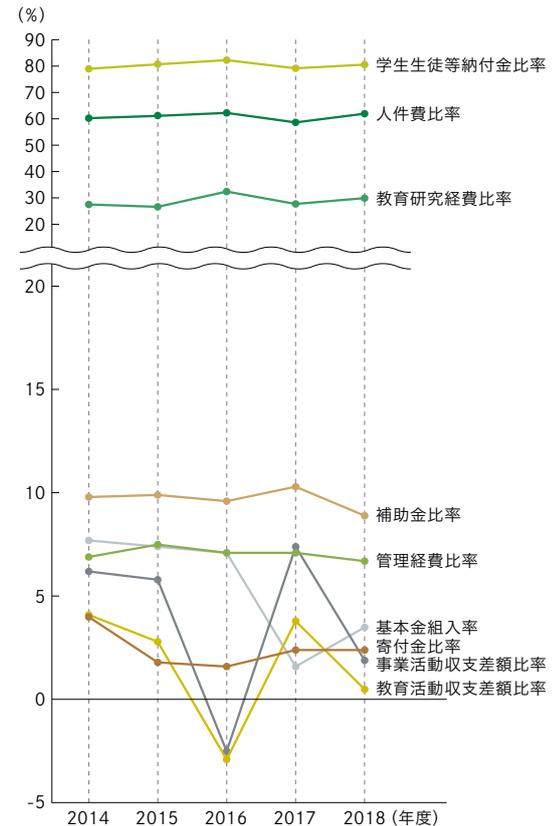
なお、2014年度の財務比率については、計算書類を新会計基準ベースに組み替えて算定しています。

事業活動収支計算書関係比率

(単位:%)

比率名	計算式	評価	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	全国平均	同規模平均
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	60.2	61.2	62.2	58.6	61.9	53.8	49.7
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	27.5	26.6	32.4	27.7	29.9	33.3	39.0
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	6.9	7.5	7.1	7.1	6.7	8.8	7.3
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	-	78.9	80.7	82.2	79.1	80.5	74.7	46.4
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	△	4.0	1.8	1.6	2.4	2.4	2.3	1.3
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	△	9.8	9.9	9.6	10.3	8.9	12.5	11.0
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△	4.1	2.8	△2.9	3.8	0.5	2.4	2.5
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△	6.2	5.8	△2.5	7.4	1.9	4.9	3.9
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	△	7.7	7.4	7.1	1.6	3.5	10.8	10.7

- (注) 1. 評価欄は「△:高い値が良い」「▼:低い値が良い」「-:どちらともいえない」を示しています。
(日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」、日本私立大学連盟「新学校法人会計基準の財務比率に関するガイドライン」を参考に記載。以下同じ。)
2. 経常収入 = 教育活動収入計 + 教育活動外収入計
3. 平均値は2017年度決算の平均値であり、全国平均は医歯系法人を除く全国509大学法人の平均値、同規模平均は学生生徒数3～5千人規模の全国109大学法人の平均値を示しています。

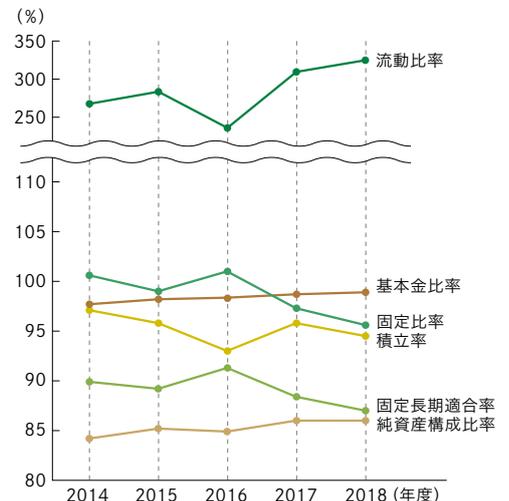


貸借対照表関係比率

(単位:%)

比率名	計算式	評価	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	全国平均	同規模平均
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	267.6	283.5	236.0	309.6	324.9	248.3	314.7
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	▼	100.6	99.0	101.0	97.3	95.6	98.7	94.8
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	▼	89.9	89.2	91.3	88.4	87.0	91.6	87.7
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	97.7	98.2	98.3	98.7	98.9	97.3	97.5
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	△	84.2	85.2	84.9	86.0	86.0	87.8	87.5
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	97.1	95.8	93.0	95.8	94.5	78.6	71.2

- (注) 運用資産 = 現金預金 + 特定資産 + 有価証券
要積立額 = 減価償却累計額 + 退職給与引当金 + 第2号基本金 + 第3号基本金



2019年度事業計画

今後の運営方針及び2019年度事業計画

本学院の主な取組みのうち、特別予算を中心とした2019年度の主な事業計画の内容は以下のとおりです。

2019年度に実施される事業計画の策定にあたり、大学では以下の重点項目を定め、これらを踏まえた施策・全学的取組を優先し採択しました。

2019年度重点項目(番号:優先順位)	
1. 広報	4. リベラルアーツ教育の推進
2. 学修環境の充実	5. 国際化の充実(学生の意識と能力アップ、英語教育の強化を含む)
3. 社会連携の強化	

中高部では、中高部1号館体育室およびタルカット記念館被服室の整備を行うなど、学修環境の充実を図ります。

広報

- ・2017年度から実施してきたブランディング施策を継続し、2019年度も交通広告を掲出します。
- ・大学ホームページのトップページの改修やK-Clip等の別サイトを大学ホームページに統合することで、ユーザビリティの向上を図ります。また、2本立てでの運用となっている大学ホームページサーバのOSをバージョンアップし、新サーバに1本化することで、セキュリティ向上とコスト削減を図ります。
- ・2019年度も、研究室における食品や化粧品についての研究成果を基にして、企業と産学連携を行い、本学にふさわしい大学ブランド商品化を図ります。新聞やメディアへの情報発信により、商品や大学、学科の認知度を上げるとともに、開発に関わった学生たちと一緒に一般の人や高校生に向けてアウトリーチを行い、商品だけではなく、本学での研究活動についても幅広く発信していきます。
- ・備蓄水の整備として保存水をKCブランド化し、販売・イベント利用などで流通させ、有効活用します。広報機能だけでなく、保存期間経過後の廃棄処分品の削減にも繋がります。

学修環境の充実

- ・2018年度からの継続事業として、ジュリア・ダッドレー記念館(JD館)中教室、エミリー・ブラウン記念館(EB館)中教室、デフォレスト記念館(D館)大教室の映像音響設備を更新します。JD館では教員から希望の多いスクリーンとホワイトボードの同時使用が可能となり、メディア有効活用により質の高い教育を実現していきます。D館では音響環境に留意し、音圧環境等も含むリスニングテストに適した環境へと整備します。
- ・入学式や卒業式など各種行事に活用されている動画配信装置のサーバ及びレコーダーを更新します。反転授業や教材としての動画活用など、授業面での利用も増えており、学生・教員により良い学修環境・研究環境を提供します。
- ・新館の蔵書の約80%を占める図書館新館地下2階にある電動式密集書架の制御装置を4年間かけて交換します。2019年度は製本雑誌収納書架1ヶ所を交換します。
- ・学生の健康上の配慮と更なる課外活動の促進を図るため、学生の要望にも応え、3ヶ年計画でクラブ室にエアコンを設置していきます。2019年度は岡田山口ロッジから着手します。
- ・2021年度に予定しているネットワークシステムのリプレイスに向けて、現状の問題点の洗い出しと最新の関連技術情報などの収集、次期システムの要求仕様の作成の支援を受けます。当支援により、関連した最新技術を把握した上での次期システムの要件定義、業者

選定や提案内容の適正な評価を可能とし、次期システムの安定的な運用に繋がります。

- ・オルガン専攻、履修者の増加に伴い、老朽化した音楽学部1号館にある練習用オルガンのオーバーホールを実施し、今後のオルガン専攻志望の学生確保と礼拝等の円滑な運営に役立てます。
- ・環境汚染物質の測定機器である質量分析計付きガスクロマトグラフィー(GC/MS)を更新し、環境科学を履修する学生の環境汚染に対する基礎知識や新規的な技術の習得に繋がります。
- ・熱中症対策として、中高部1号館体育室の空調設備を更新します。
- ・中高部タルカット館の被服教室の老朽化に伴い、収納棚の更新やコンセント設備工事、ミシン台・ミシンケースの改造等を実施し、円滑に授業が進められるよう整備します。

社会連携の強化

- ・2018年度から開始した「戦略的人生設計への試み」として英語を使用する企業への就職を考えるプログラムを継続して実施します。外資系金融企業での豊富な経験を持つ講師をコンサルタントとして迎え、メンタリングセッション、講演会、インターンシップなどを実施します。
- ・2019年度も「舞踊卒業公演」「舞踊年度公演」を行います。また、東京音楽大学との共通講座の開講やザルツブルグ音楽院のウェブレッスンのサポート等も継続して実施します。
- ・西宮浜活性化に関して西宮市と連携協定を結んでいる本大学では、2018年度から実習の中で街の活性化に取り組み始め、主軸となる「西宮浜アートによる町おこし」の一環として、神戸地区も含めたストリートアート巡り本を作成します。また、多様な西宮地区の活性化活動の理解とPRの強化を図るため、活動をまとめたパンフレットを作成します。

国際化の充実

- ・「国際化ビジョン」に従って国際交流事業を活性化するための短期受入れに加え、2018年度より実施している「日本語&日本文化集中プログラム」(1クール4~5週間)を継続し、日本語授業数の大幅拡充により、交換留学制度の安定的な運用と、在学生のキャンパス内における国際交流・国際理解を深める機会を拡大します。
- ・派遣留学に必要な英語スコア(TOEFL-iBT、IELTS(アイエルツ))を取得するための課外補習講座を2019年度も開講します。また、IELTS学内受験時の受験料一部補助(1万円/人)も継続し、派遣留学を含めた留学者数の増加を図ります。
- ・2017年度からの継続事業として、大学1年生の後期、GE161(2)履修者全員にOsaka English Village(体験型英語教育施設)への参加を義務づけ、英語学習のモチベーションアップを目指します。また、「英語手帳」を使った学習も継続します。
- ・2年生後期~4年生の全学科学生を対象にIP-TOEIC(L/R)を実施し、受験料の50%を補助してTOEICを勉強するモチベーション維持とスコアアップを支援します。また、英語能力の高い学生の中で一定の受験希望があるTOEIC(S/W)テストについても受験料の50%を補助します。
- ・TOEIC講座受講料の50%及びテキスト代を大学で負担し、意欲のある学生の受講を推進することで、さらなるスコアアップを支援します。
- ・「共通英語教育研究センター活動報告書Vol.2」を発行し、同センターの立ち上げ期(2年間)の次の発展期(4年間)の活動をまとめることにより、次の新たなステップに繋げるための検証を行います。さらに、全国の高校・大学に同報告書を配布し、本学独自の英語教

2019年度事業活動収支予算書

(単位:百万円)

育・成果をアピールする事により、受験生確保に繋がります。

- ・初年度学生対象の英語コミュニケーション能力強化短期集中プログラムを夏期休暇期間中に開催し、意欲等に応じて選択可能なA(海外で2週間)、B(国内で1週間)のプログラム受講補助を行います。両者とも、英語プレゼンテーションを専門に教えるネイティブスピーカーによる集中的演習を中核に据えており、Aは1割を補助、Bは半額を補助します。当プログラムの成果を、初年度英語コミュニケーション強化プログラム提供のためのパイロットプログラムとして活用します。
- ・「遠隔同時会議・通訳システム」を継続活用することにより、海外とライブで双方向的な授業や会議を展開します。学生の国際感覚や語学力の向上、遠隔地との会議の簡易化を図ります。

【その他】

【セキュリティ】

- ・2019年度は運用等ソフト面での強化を図ります。セキュリティの専門家を活用し、職員、中高部教員、大学教員、警備員をメンバーとしたプロジェクト新体制を構築します。セキュリティに対する学内の機運醸成のため、教職員、学生生徒、関連業者に対するプロモーション活動を行うとともに、学内の運用を定着させ、鍵管理規程や各種マニュアルを制定、整備することでルールを明文化します。

【管理】

- ・重要文化財各棟で経年による外壁等の汚れや損傷が見られるため、保存を目的として、2019年度は図書館、文学館及び中高部1号館において、外壁の洗浄と各部の補修等を行います。(文化庁補助対象事業)
- ・創立150周年に向けたキャンパス再整備計画を推進するために必要となる基礎資料の作成を行います。2018年度に実施したキャンパスマスタープラン検討資料作成に引き続き、2019年度には西門バリアフリー整備等についての検討を進めます。
- ・中高部1号館の屋上防水機能が損なわれ、台風等の豪雨時に漏水による被害が深刻化するなど経年劣化している防水層の全面改修を行い、耐久性の向上を図ります。
- ・従来、講堂天井のスポットライトを手動で設置していましたが、安全性への配慮や、光天井の蛍光灯ベース照明のLED化や意匠面も考慮した形で講堂光天井照明改修工事を行います。
- ・学生アンケート等の要望を受け、大学では音楽学部1号館2階及びオルチン館1階のトイレの改修、中高部ではタルカット記念館の生徒用・教職員用のトイレの改修を行います。
- ・老朽化した受水槽及び入水層から給水管に圧送するポンプを更新し、基幹設備の予防保全に努めます。
- ・埋設環境により腐食によるガス漏れが発生する可能性がある古いタイプのガス管(白ガス管)は、国が定めた計画に基づき、2020年までに保安上重要な建物について樹脂製のガス管に更新する必要があるため、2019年度中に改修工事を完了させます。
- ・2020年1月のWindows7サポート終了に伴い、Windows10へのアップグレードが必要となるため、スケールメリットによるコストダウンとセキュリティ対策の観点から、標準機能のパソコンを一括購入します。
- ・キャンパスの土地建物や施設設備に関わる情報の信頼性を高めるため、2019年度は測量事務所に協力を仰ぎながら管理資料の整備や登記確認等を進め、本学敷地の境界線について整理します。
- ・旅費規程の見直し作業を継続して実施し、旅費関連事務の標準化を図ります。将来的には旅費精算システムを導入し、事務の効率化に繋がっていきます。

		科 目	金 額
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,106
		手数料	97
		寄付金	61
		経常費等補助金	429
		付随事業収入	69
		雑収入	88
		教育活動収入計	4,851
	事業活動支出の部	人件費	3,092
		教育研究経費	1,421
		管理経費	329
徴収不能額等		-	
	教育活動支出計	4,842	
教育活動収支差額			9
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	41
		その他の教育活動外収入	-
		教育活動外収入計	41
	事業活動支出の部	借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	-
		教育活動外支出計	0
教育活動外収支差額			40
経常収支差額			49
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	-
		その他の特別収入	53
		特別収入計	53
	事業活動支出の部	資産処分差額	9
		その他の特別支出	-
		特別支出計	9
特別収支差額			44
基本金組入前当年度収支差額			94
基本金組入額合計			△ 113
当年度収支差額			△ 18

(参考)

事業活動収入計	4,946
事業活動支出計	4,851

歴史ある学院の姿を いつまでも守るために

建築当時の美しさを未来に継承していくため、
手入れを続けています。



before



屋根から墨が流れたような入り口周りと黒カビに覆われた西・北面の汚れを洗い落とし、傷んだ窓枠の塗膜とパテが修理されたチャペルは当初の輝きを取り戻し微笑むようです。

before



before



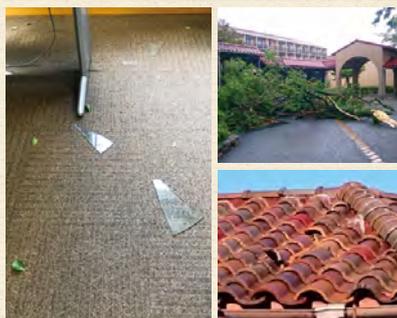
教室の窓に当初の鋼製建具が唯一残る理学館東面、地金は浸水により錆びた箇所以外は今もなお健全で、分析調査により純度の高い貴重な鋼材であると判明しました。



当初の建築要素が多く残る総務館（講堂）正面。後補の吹付リシンによる塗膜膨れで損なわれていた擬石風仕上げの繊細なレリーフやクローバー枠などが蘇りました。

自然災害による被害の 復旧工事が完了

2018年6月の大阪府北部地震、7月の豪雨、9月の台風21号、10月の台風24号と相次ぐ自然災害による復旧対応として50件以上の修理工事等を実施。2017年同様に倒木や瓦・樋の破損、各所の漏水の他、初めて街灯の灯具まで落下しました。また中高部1号館屋上からの漏水が生じ、緊急屋上防水工事を行いました。



自然災害による被害を受けた校舎。

樹木に手を入れ、 学内の景色をより美しく

樹勢の衰えが目立つ正門前ソメイヨシノの補植、樹形が崩れた講堂裏のタイサンボクとイチヨウの高枝剪定、シェイクスピアガーデンの二代目イトスギの植樹、枯れたチャペル裏のカナダトウヒ（記念樹）の植え替え、近隣への対応として敷地境界部の高木剪定、グラウンド芝生の部分補修等の整備を行いました。



高所で交差する枝が整えられたタイサンボクとイチヨウ。

電圧受電装置を取り替え、 停電事故に備える

電力供給の大元となる高圧引込ケーブルと責任分界点の柱上PASが施工後23年経過していたので更新しました。受変電設備に不具合があると広範囲に影響があるので今後も停電事故がないように順次更新していきます。

老朽化した中高部1号館 （葆光館）の給水配管を改修

2017年度に一階床下給水管からの漏水が頻繁に発生したことから、老朽化した管の更新を行いました。本館は葆光館として重要文化財に指定された建造物であることから、内外部ともに影響を最小限とするよう慎重に計画しました。

校地・校舎

・岡田山キャンパス

所在地 西宮市岡田山4番1号

校地面積 141,964.01 m²



- 1 正門
 - 2 音楽学部1号館
 - 3 音楽学部2号館
 - 4 ジョージ・オルチン記念音楽館
 - 5 エミリー・ブラウン記念館
 - 6 文学部1号館
 - 7 文学部2号館
 - 8 デフォレスト記念館
 - 9 図書館本館
 - 10 理学館
 - 11 総務館・講堂・ソールチャペル
 - 12 文学館
 - 13 理学館別館・心理相談室
 - 14 社交館
 - 15 新社交館
 - 16 メアリー・アンナ・ホルブルック記念館
 - 17 第一体育館
 - 18 第二体育館
 - 19 第三体育館
 - 20 テニスコート
 - 21 購買部
 - 22 シェイクスピア・ガーデン
 - 23 図書館新館
 - 24 ジュリア・グッドレー記念館
 - 25 エッジウッド館
 - 26 ケンウッド館
 - 27 メアリー・アンド・グレイス・ストウ学生寮
 - 28 岡田山ロッジ
 - 29 大学クローバー館(クラブハウス)
 - 30 茶室(松風庵)
 - 31 ミリアム館
 - 32 汽罐室と煙突
 - 33 アンジー・クルー記念館
 - 34 コミュニケーションセンター
 - 35 葆光館(中高部)
 - 36 ヴァージニア・クラークソン記念館
 - 37 タルカット記念館
 - 38 めぐみ会館(同窓会館)
 - 39 Kobe College International Students House
- は重要文化財

・東京寄宿舍クローバーハウス

所在地 東京都渋谷区大山町8番7号

敷地面積 367.46 m²

理学館

人間科学部の学び舎である理学館。中庭に面した入口上部の三連窓の手摺は、戦時中の金属供出により失われたままとなっています。校舎中央の高く張り出した部分は3階建になっており、当初の図面によれば西面のバルコニー脇に望遠鏡室が設けられていました。

